

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報

---

2022

仙台市富沢遺跡保存館  
SENDAI CITY TOMIZAWA SITE MUSEUM

仙台市縄文の森広場  
SENDAI CITY JOMON SITE PARK



## はじめに

地底の森ミュージアム（仙台市富沢遺跡保存館）は、2万年前の旧石器時代のたき火跡と森林跡を発掘したままの状態で作保存・公開し、当時の景観を「氷河期の森」として野外に復元している施設です。平成8年に開館し、この7月には100万人目のお客様をお迎えすることができました。また、姉妹館である仙台市縄文の森広場は、縄文時代の集落跡が発見された山田上ノ台遺跡を保存・活用する目的で、平成18年に開館し、これまでの体験学習活動を含めた利用者は45万人を超えました。

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2度にわたる臨時休館を余儀なくされましたが、感染対策を講じながら各種事業を推進するとともに、多様な媒体による情報発信も行ってまいりました。

地底の森ミュージアムでは、旧石器時代の常設展示のほか、企画展「発掘！食の百貨店」など年4回の企画展、「氷河期の森」の維持管理をはじめとして、ミュージアムの特性を体感できる各種の講座や体験学習、季節ごとのイベント、仙台市縄文の森広場と連携して市内小・中学校を対象とした利用学習、職場体験、博物館実務実習などを開催しました。また、当館の特色でもある市民文化財研究員やボランティア育成などの事業、自主事業「親子でつくろう古代米」・「ミュージアム・シアター『狩人登場』」・「森の響き」・「地底の森アーカイブス」などを実施しました。さらに、ボランティア会と共に、地域住民との交流を図る「体験！発見！地底の森」を開催したほか、大学生のサポーターや市内高校生の活動協力を得ながら、館活動の展開を図っています。

仙台市縄文の森広場では、児童生徒やご家族連れが勾玉づくりなどの多彩な体験活動に取り組んだほか、縄文文化に関する各種教室・講座など、市民参加による様々な事業を実施することができました。恒例となった季節ごとの縄文まつりでも、歴史的な空間の中で、地域の小・中学生や市民とともに楽しく有意義な交流を行うことができました。また、展示室内の企画展示コーナーでは東北地方の代表的な縄文遺跡を4回にわたり紹介しました。さらに、自主事業である「展示手法の開発・導入」では、3次元データの計測・蓄積・活用を行うとともに、リビング・ヒストリーの実践として石器製作実験セミナーを開催しました。

地底の森ミュージアムと仙台市縄文の森広場は、テーマミュージアムとしての専門性を深めるのみならず、運営懇談会を開催するなどして市民ニーズに対応した新たな取り組みを行い、「人間と環境」を考えるランドマークとなるような事業展開を目指します。また、先人の知恵に学ぶという観点から、両館が相互に補完し合う施設としてさらに連携、協力を図りながら、歴史を継承するための事業を進めてまいります。

今後も、歴史的資源としてのみならず、豊かな地域資源としての可能性を開発していくためにも、両館の事業展開に多方面の皆様方の益々のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年9月

(公財) 仙台市市民文化事業団  
仙台市富沢遺跡保存館  
仙台市縄文の森広場  
館長 武山 剛久

# 目 次

はじめに  
目次  
例言

## 地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要	1
2. 組織・運営	1
3. 沿革	2
4. 整備の目的と基本方針	8

### 〔地底の森ミュージアム〕

1. 令和3年度事業報告	12
(1) 展示事業	12
(2) 普及啓発事業	16
(3) 調査・研究事業	21
2. 施設管理	22
(1) 定例保守	22
(2) 施設・設備などの修繕	22
(3) 新型コロナウイルス感染症対策	22
3. 利用状況	22
4. 入館者アンケート	24
5. 令和4年度事業計画	24
(1) 展示事業	24
(2) 普及啓発事業	25
(3) 調査・研究事業	27
(4) 縄文の森広場との連携事業	27
(5) 資料の収集・保管	27
(6) 管理運営	27
(7) 刊行物	27
6. 利用案内	28

### 〔仙台市縄文の森広場〕

1. 令和3年度事業報告	29
(1) 展示事業	29
(2) 普及啓発事業	32
(3) 体験活動事業	34
(4) ボランティア活動事業	35
(5) 調査・研究事業	36
2. 利用状況	37
3. 入館者アンケート	39
4. 令和4年度事業計画	39
(1) 基本方針	39
(2) 展示事業	39
(3) 普及啓発事業	39
(4) 調査・研究事業	41
(5) 資料の収集・保管	41
(6) 管理運営	41
(7) 刊行物	41
5. 利用案内	42

## 例 言

1. 本書は、公益財団法人仙台市市民文化事業団が仙台市より指定を受け、令和3年度に実施した仙台市富沢遺跡保存館指定管理業務(仙台市縄文の森広場を含む)の各事業などに係る実施報告と、令和4年度事業計画である。
2. 本書の編集は地底の森ミュージアムの平塚幸人、仙台市縄文の森広場の榎戸由樹が行った。

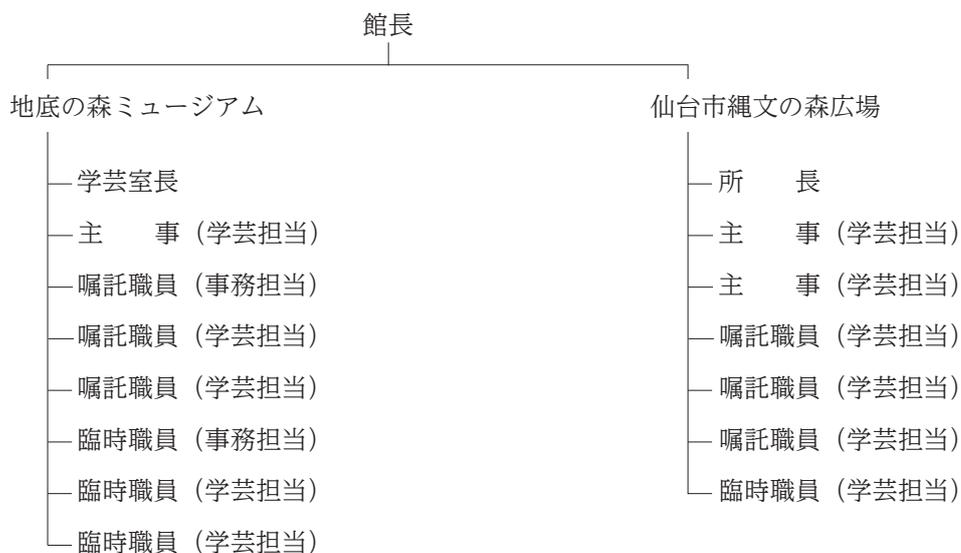
# 地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

## 1. 施設の概要

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
開館日	1996年(平成8年)11月2日	2006年(平成18年)7月15日
設置場所	〒982-0012 仙台市太白区長町南四丁目3-1	〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10-1
敷地面積	14,263㎡	27,350.94㎡
延床面積	2,743㎡	1,211.78㎡
建築構造	地下1階 地上1階 鉄骨鉄筋コンクリート	鉄筋コンクリート造一部2階建
特徴	<p>建物は、コンクリート打放しの楕円形をしている。周囲の壁は地下の遺跡の保存と公開のために、建物基礎を兼ねた厚さ80cmの連続地中壁であり、それを地下20mまで築いて地下水を遮断する構造である。</p> <p>建物内部については、地下の遺跡展示室は柱のない広がりをもった大空間となっており、中地下も含めて、床にはアスファルトブロックが敷かれ、照明を抑えて清謐な雰囲気になっている。対照的に1階は床を板張りとし、自然光を取り入れた明るい空間となっている。中でも、来館者にとっては最後の空間となる展望ラウンジは窓を大きくとり、そこからは野外展示の氷河期の森が眺められるようになっている。</p>	<p>野外には、復元した竪穴住居3棟を中心にその他の遺構を表示し、環境とともに集落を再現した縄文ムラゾーンと、未調査区でイベントや発掘体験などを行う広場ゾーンがある。</p> <p>その北側の一面に出土資料などを展示し、各種体験活動ができるガイダンス施設を付設している。</p>

## 2. 組織・運営

両館の管理・運営は、仙台市より令和4年度から令和8年度までの5ヶ年間の指定管理者に指定された公益財団法人仙台市民文化事業団が行っている。令和4年4月1日時点の職員配置は下記のとおりである。



なお、地底の森ミュージアムは受付・案内業務、常駐警備業務、清掃業務を、仙台市縄文の森広場は清掃および復元住居の火焚き業務を民間に委託している。

### 3. 沿革

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
1980年 昭和55年		宅地造成にともなう山田上ノ台遺跡の発掘調査で、縄文時代中期末を主とする竪穴住居跡などの多数の遺構が発見され、集落構造の全体がわかる遺跡の重要性から保存を決定する。 遺跡の活用を図るための「(仮称)原始古代村構想」の検討がスタートする。
1982年 昭和57年	地下鉄建設にともなう試掘調査で富沢遺跡が発見される。	
1984年 昭和59年		旧石器時代資料の充実を図るために第2次調査を実施する。
1988年 昭和63年	富沢遺跡第30次発掘調査において2万年前の人類の生活跡と森林跡が発見され、仙台市は遺跡の重要性に鑑み、小学校の建設地を変更し保存と活用を判断。	
1989年 平成元年	保存科学・地質学・遺跡整備・都市工学・動物生態学など各界の学識者からなる基本構想策定委員会を設置し、富沢遺跡と山田上ノ台遺跡とともに活用する方針で「仙台市旧石器の森・原始古代村の整備および仙台市考古系総合博物館基本構想報告書」を策定。	
1990年 平成2年	「基本構想」において検討課題であった遺跡の保存処理工法について「富沢遺跡保存技術調査報告書」(仙台市考古系総合博物館基本計画)を策定。	
1991年 平成3年	「(仮称)原始古代村・旧石器の森整備基本計画」を策定。	
1992年 平成4年	富沢遺跡保存館の建築基本設計、展示基本設計、富沢遺跡保存処理方式開発の業務委託、氷河期の森広場整備基本設計を行った。	
1993年 平成5年	富沢遺跡保存館の建築・展示実施設計、氷河期の森広場整備実施設計、遺構保存処理システム策定業務委託を行った。	
1994年 平成6年	富沢遺跡保存館の建設工事に着工。	
1995年 平成7年	正式名称が「仙台市富沢遺跡保存館」、愛称が市民公募をもとに「地底の森ミュージアム」と決定。	
1996年 平成8年	4月1日より富沢遺跡保存館の管理・運営は仙台市より委託された(財)仙台市歴史文化事業団があたることとなり、その組織ができた。建築工事および展示工事が3月に完了。また、遺構保存処理作業は8月、「氷河期の森」の造成工事は8月、植栽工事は10月に完了。11月2日に開館する。	
1997年 平成9年	5月18日 天皇皇后両陛下ご来館。	
1998年 平成10年	3月7日 入館者10万人達成。	
2000年 平成12年	4月15日 入館者20万人達成。	山田上ノ台遺跡の活用整備のために「縄文の森広場基本計画策定委員会」が設置される。
2002年 平成14年	8月24日 入館者30万人達成。	第3次発掘調査により後期旧石器時代の石器が多数発見される。

2004年 平成16年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市歴史文化事業団が(財)仙台市市民文化事業団に統合されたことにより、事業団が指定管理者となる。	「仙台市縄文の森広場」の建設工事が始まる。
2005年 平成17年	5月19日 入館者40万人達成。	
2006年 平成18年		「仙台市縄文の森広場」が完成。7月15日に開館する。
2007年 平成19年	9月11日 入館者50万人達成。	7月15日 開館1周年記念イベント開催(記念植樹や演奏会などで祝う)。
2009年 平成21年		5月4日 入館者10万人達成。
2010年 平成22年	6月12日 入館者60万人達成。	
2011年 平成23年	3月11日 東日本大震災により休館。	
	6月14日 再開。	4月12日 再開。
2012年 平成24年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市市民文化事業団が公益法人となる。	
		8月7日 入館者20万人達成。
2013年 平成25年	9月14日 入館者70万人達成。	
2015年 平成27年		11月3日 入館者30万人達成。
2016年 平成28年	6月12日 入館者80万人達成。	
2017年 平成29年	2月18日・19日 地底の森ミュージアム 開館20周年・仙台市縄文の森広場 開館10周年を記念して、シンポジウムを開催。	
2018年 平成30年	9月22日 入館者90万人達成。	
2019年 平成31年		4月30日 入館者40万人達成。
2020年 令和2年	4月11日～5月17日 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館。	
2021年 令和3年	3月26日～5月11日 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館。 8月31日～9月12日	
2022年 令和4年	3月17日 福島県沖地震復旧作業のため臨時休館。 7月9日 入館者100万人達成。	



地底の森ミュージアム キャラクター  
富沢博士



仙台市縄文の森広場 キャラクター  
ハナちゃん

## [地底の森ミュージアム]



地下展示室



外観



1階展示室

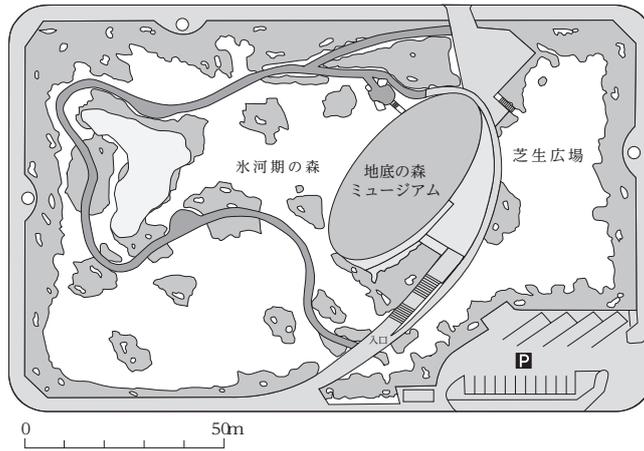


氷河期の森(夏)

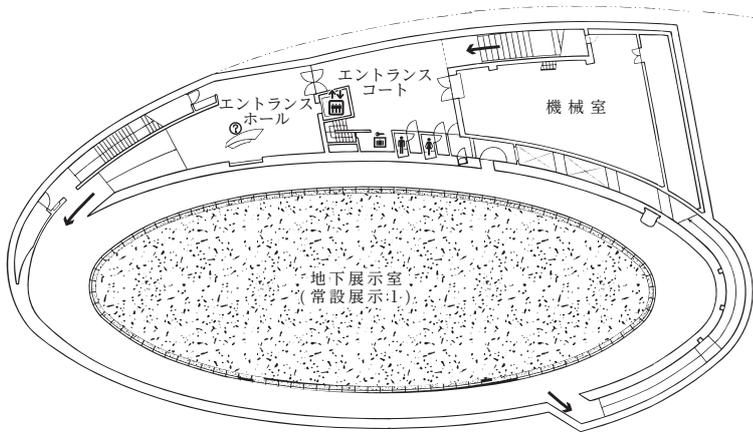
### 各室面積表

(㎡)

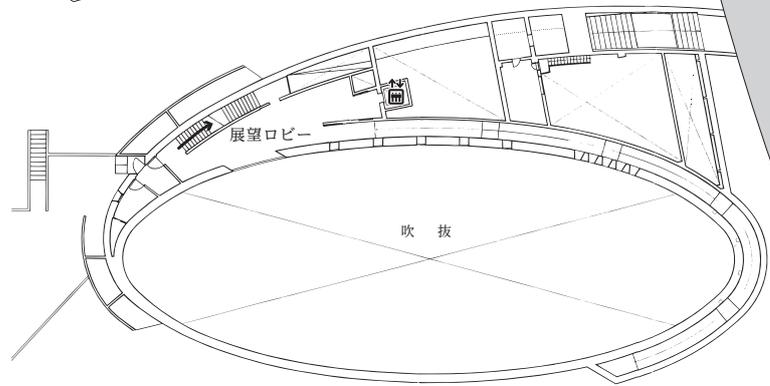
地下	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下展示室(常設展示1)</li> <li>エントランスホール</li> <li>エントランスコート(半野外)</li> <li>トイレ</li> <li>倉庫</li> <li>機械室</li> <li>E Vシャフト</li> <li>その他</li> </ul>	916 113 76 9 15 185 6 14
地下 中地下	<ul style="list-style-type: none"> <li>スロープ</li> <li>階段</li> </ul>	124 31
中地下	<ul style="list-style-type: none"> <li>展望ロビー</li> <li>E Vシャフト</li> <li>その他</li> </ul>	74 6 59
1階	<ul style="list-style-type: none"> <li>1階展示室</li> <li>企画展示室</li> <li>展望ラウンジ</li> <li>研修室</li> <li>事務室・学芸室</li> <li>収蔵庫</li> <li>荷解室</li> <li>自販機スペース</li> <li>ボランティア室</li> <li>廊下</li> <li>階段ホール</li> <li>トイレ</li> <li>エントランス</li> <li>守衛室</li> <li>機械室</li> <li>E Vシャフト</li> <li>その他</li> </ul>	311 87 170 78 99 58 17 6 7 28 81 45 7 6 40 6 18
ピット階 (21㎡)		21
計		2,743㎡



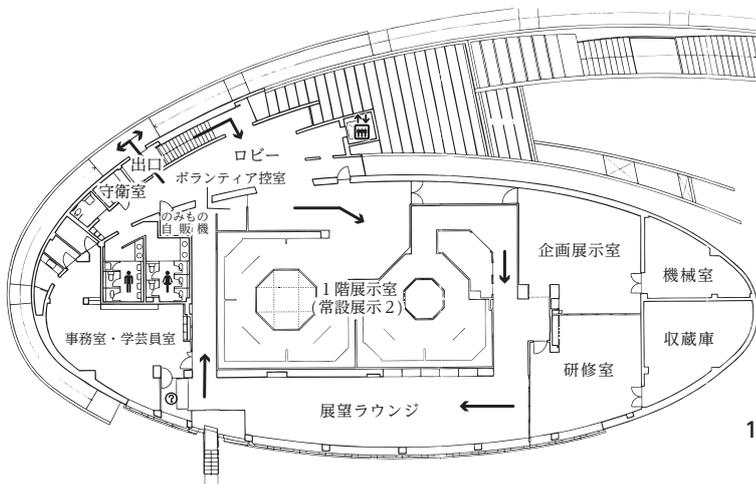
全体



地下平面図



中地下平面図



1階平面図

## [仙台市縄文の森広場]



縄文ムラゾーンとガイダンス施設



展示室



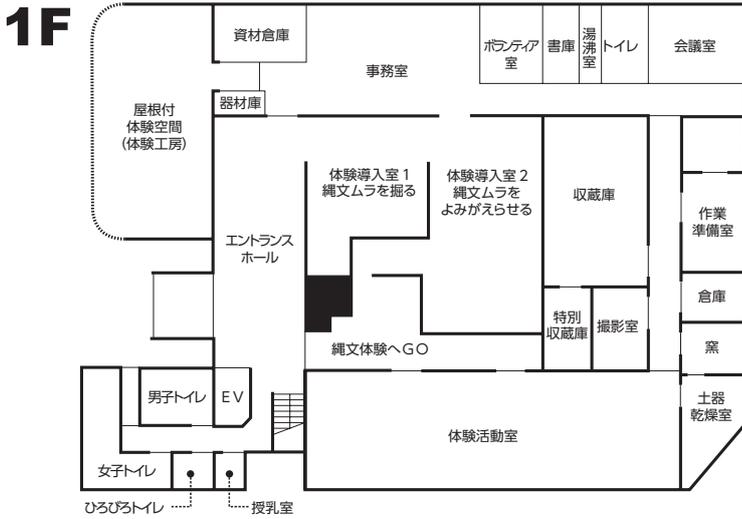
エントランスホール



体験活動室



展望休憩室



ガイダンス施設平面図

各室面積表

	(㎡)
体験導入室	207.93
体験活動室	160.58
屋根付体験空間	98.70
展望休憩室	69.90
収納庫	81.19
ボランティア室	17.10
事務室	68.08
会議室	25.42

## 4. 整備の目的と基本方針

### 地底の森ミュージアム

<p><b>設置の趣旨・目的</b></p>	<p>仙台市では富沢遺跡第30次調査の貴重な成果から調査対象地区を保存するとともに、積極的に公開・活用していくこととし、樹木やたき火跡を大地から切り離さずそのままの姿で保存処理をして展示・公開する「富沢遺跡保存館」と、発見された樹木などをもとに旧石器時代の植生を復元する「氷河期の森」を一体的に整備した。</p> <p>仙台市富沢遺跡保存館は、この保存された富沢遺跡の活用をとおして、主に旧石器時代の歴史や文化の理解を深めることをねらいとしている。</p>
<p><b>基本的性格・基本方針</b></p>	<p>①富沢遺跡保存館は、世界的にも貴重な富沢遺跡の歴史的価値を人類共通の遺産として保存しながら、積極的に公開・活用し、市民が誇れる施設とする。</p> <p>②富沢遺跡保存館は、旧石器時代を中心としたテーマミュージアムである。ここでは発掘された2万年前の樹木やたき火跡を現地で保存処理して公開するとともに、発見された遺物などとおして当時の環境と人類の活動を生き生きとよみがえらせ、それを世界的な視野の中に位置付ける活動を行っていく。</p> <p>③富沢遺跡保存館の野外展示である「氷河期の森」では、富沢遺跡の調査から判明した氷河期の植生を再現し、自然の悠久なる偉大さが臨場感豊かに伝わるよう展示するとともに、市街地の中のオアシスとして市民に憩いの場を提供する。</p> <p>④富沢遺跡保存館は、来訪者に富沢遺跡がもつ歴史的な魅力をダイナミックに伝えるとともに、学校教育活動との緊密な連携を図りながら、生涯学習の視点から市民の発展的な創造力の涵養を積極的に支援する施設とする。</p>
<p><b>収蔵資料</b></p>	<p>当館の建設された経緯から、富沢遺跡から出土した仙台市教育委員会が所蔵する資料のうち、常設展示に関する資料及び旧石器時代に関する資料を借用し保管している。特に、富沢遺跡出土の球果や葉などの植物化石、シカのフンは大型冷蔵庫に収納するなど、資料の日常的な管理作業を必要とする。</p> <p><b>【常設展示関係資料】</b></p> <p>①人工遺物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○富沢遺跡第30次調査27層出土石器 111点(K63～K167c)</li> <li>○富沢遺跡第30次調査27層出土チップ 137点</li> <li>○富沢遺跡第30次調査25層など出土チップ 81点</li> <li>○富沢遺跡第8次調査出土縄文土器 1点(A-1)</li> <li>○富沢遺跡第30次調査出土石匙 1点(K-30)</li> <li>○富沢遺跡第30次調査出土弥生土器 1点(B-5)</li> <li>○富沢遺跡第30次調査出土石庖丁 1点(K-25)</li> <li>○富沢遺跡第30次調査出土須恵器坏 1点(E-6)</li> </ul> <p>②自然遺物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○富沢遺跡第30次調査27層検出炭化物 1箱(テンバコ32)</li> </ul> <p>③模型・剥製</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人類頭骨模型 9点</li> <li>○シカ剥製(成獣、幼獣) 3体</li> </ul> <p>④富沢遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献</p>

**【保管資料】**

①富沢遺跡出土遺物

- 富沢遺跡第30次調査25～27層出土植物化石 2,091点
- 富沢遺跡第30次調査25層出土フン 21ブロック
- 富沢遺跡第58次調査21～41層出土植物化石 398点
- 富沢遺跡第63次調査21～25b層出土植物化石 52点
- 富沢遺跡第66次調査33～35層出土植物化石 25点
- 富沢遺跡第68次調査24・26層出土植物化石 20点
- 富沢遺跡第88次調査9～13層出土植物化石 2,663点
- 富沢遺跡第88次調査9～11層出土フン 42ブロック
- 富沢遺跡第90次調査25～27層出土植物化石 1,525点
- 富沢遺跡第90次調査25層出土フン 20ブロック

②近隣遺跡出土遺物（仙台市指定有形文化財）

- 春日社古墳出土革盾 1点
- 春日社古墳出土鉄矛 1点
- 春日社古墳出土鉄鍬 1束（15本）

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊文化財発掘出土情報・月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・考古学雑誌・旧石器考古学 など
- 一般図書：旧石器時代・考古学・人類学・植物学などの関連図書 など

⑤イラスト及び版画 制作：細野修一

- 特別企画展関係 54点
- その他常設展示関係など 4点

⑥その他

- 二階堂亮氏寄贈：石斧1点や文献・写真など計24点（平成9年4月17日受）
- 高橋政治氏寄贈：日本国内及びニュージーランドの土器約50点、石器約330点など計約400点（平成14年8月19日受）
- 二階堂亮氏寄贈秋保電鉄旗立駅関連図面写し計4点（平成21年5月28日受）

## 仙台市縄文の森広場

<p><b>設置の趣旨・目的</b></p>	<p>遺跡の整備は、地域社会あるいは都市空間のなかで、具体的な活用の姿を示し、社会的・文化的役割を担うことを目的とし、縄文ムラの復元によって、都市の歴史的背景の一端を共有できる空間と、体験活動を通して人と自然との関わりを知ることにより、創造的な市民の意識がはぐくまれる空間を創り出す。</p>
<p><b>基本的性格・基本方針</b></p>	<p><b>【整備の基本方針】</b></p> <p>①遺跡の保存整備：遺跡の保存状態を良好に維持し、後世に伝える。</p> <p>②縄文ムラの復元整備：縄文時代中期末葉を復元対象の時期として東地区に竪穴住居を数棟作り、継続的な発掘調査の成果を活かしながら、西地区を含めてその変遷を追うように建て替えを行ってムラの変化を示す。また、環境復元は現状の植生を考慮して行う。</p> <p>③市民の憩いの場としての整備：縄文人の生活した場所であることが体感できる市民の憩いの場としての整備を行う。</p> <p>④体験活動の場としての整備：ガイダンス施設や体験活動を行う場を整備する。</p> <p>⑤発掘調査の場としての整備：山田上ノ台遺跡の未調査地区を主な対象とした計画的な発掘調査を継続して行い、その成果を基に整備を行う。</p> <p><b>【活動の基本方針】</b></p> <p>①体験活動：山田上ノ台遺跡の調査成果及び保存整備の意義を導入として、縄文人の生活と技術をテーマとする体験活動を展開する。体験活動は継続的な発掘調査と生活と技術の復元調査の成果をもとに充実していく。</p> <p>②発掘調査：体験活動を兼ねた発掘調査を行い、山田上ノ台遺跡の全体像を明らかにする。</p> <p>③情報の発信・受信・交流：体験活動の情報や縄文時代を中心とする発掘情報を広く市民に提供する。</p> <p>④講座・教室の開催：体験活動に関する内容を主とし、縄文時代の生活などを紹介する講座や新しい体験メニューを実践する教室を開催する。</p> <p>⑤学校・生涯学習施設との連携：学校との連携によって、小中学校などを対象とした体験学習を授業で積極的に行う。また、地底の森ミュージアムや市民センターなどの生涯学習施設と連携した活動を行う。</p> <p>⑥教職員対象講座の開催：小中学校の教職員を対象に、社会科、歴史、総合学習などの授業に関する支援と学習の場を提供する。</p> <p>⑦ボランティアの育成と支援：ボランティアの育成を行い、多様なボランティア活動を支援する。</p> <p>⑧地域住民との連携：山田地区の市民を対象に、山田上ノ台遺跡の重要性を理解し、活用してもらうためのさまざまな活動を行う。</p> <p>⑨資料収集・保管：調査・研究に関わる文献や資料の収集・整理と、遺跡出土遺物の保管を行う。</p>
<p><b>収蔵資料</b></p>	<p>当館は建設の経緯から、仙台市教育委員会が所蔵する山田上ノ台遺跡に関する常設展示資料、及びその他の出土資料を借用し、保管している。</p> <p><b>【常設展示関係資料】</b></p> <p>①人工遺物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○山田上ノ台遺跡出土縄文時代の資料 土器40点・石器141点・土製品7点</li> <li>○山田上ノ台遺跡出土旧石器時代の資料 石器11点</li> </ul> <p>②山田上ノ台遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献</p>

**【保管資料】**

①山田上ノ台遺跡出土遺物

- 山田上ノ台遺跡第1次調査 旧石器時代の資料(テンバコ32)3箱・登録縄文土器344点・円盤型土製品1059点・土器破片99点・石鏃270点・石匙62点・石錐79点・篋状石器38点・その他石器9467点・石核(テンバコ32)2箱・凹石393点・礫石器(テンバコ32)6箱・磨製石器688点・焼礫(テンバコ32)6箱・石皿14点・扁平石(テンバコ32)5箱・打製石斧5点・磨製石斧40点・石製円盤11点・砥石12点・石刀3点・石剣1点・石棒1点・块状耳飾1点・登録土師器63点・土師器破片(テンバコ32)2箱・登録須恵器13点・須恵器破片(テンバコ32)2箱・陶磁器72点・釘68点・鏡1点・金属製品16点・木製品2点・墓石1基・石碑1基・人骨(テンバコ32)5箱・未整理(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)1箱
- 山田上ノ台遺跡第2次調査 旧石器時代の資料(テンバコ16)1箱
- 山田上ノ台遺跡第3次調査 石器(テンバコ32)2箱・接合資料26点・礫石器(テンバコ32)6箱・縄文土器(テンバコ32)1箱・炭化物(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)12箱
- 山田上ノ台遺跡第4次調査 未整理遺物(テンバコ32)5箱

②縄文関連遺跡出土遺物

- 下ノ内浦遺跡 遺物40点・パネル2枚
- 伊古田遺跡 遺物47点・パネル1枚
- 上野遺跡 遺物13点
- 王ノ壇遺跡 遺物4点
- 下ノ内遺跡 遺物2点・パネル2枚
- 山口遺跡 遺物2点
- 六反田遺跡 遺物2点・パネル1枚
- 大野田遺跡 遺物20点 パネル2枚
- 北前遺跡・高柳遺跡・三神峯遺跡・鍛冶屋敷遺跡 各1点

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・博物館研究 など
- 一般図書：縄文時代・考古学・博物館学 など

# [地底の森ミュージアム]

## 1. 令和3年度事業報告

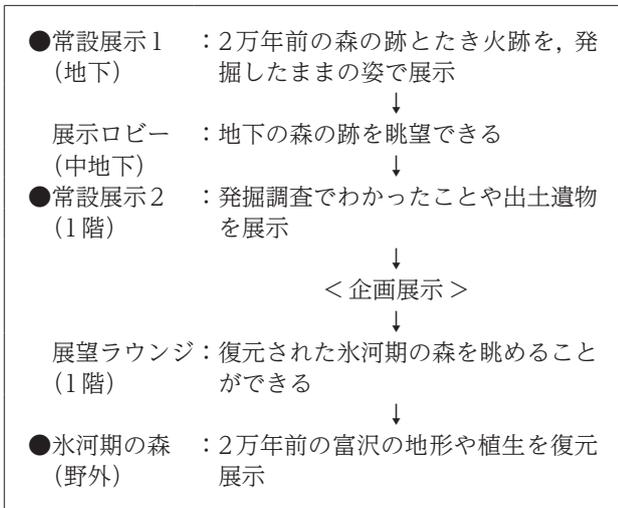
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年度事業は中止や延期、内容変更など大幅な見直しが必要となった。以下では、事業の実施状況・内容等の実績報告として記載した。そのため、昨年度刊行した『地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報2021』に掲載した事業計画とは異なっているところがある。

### (1) 展示事業

#### ①常設展示

##### i) 展示の構成

来館者は最初に地下の「常設展示1」で、発掘された2万年前の森の跡と人類の生活跡を見学する。次に発掘調査の成果を「常設展示2」を通して理解し、さらに企画展を開催している場合はこれを見学する。そして、最後に保存館より外に出て、復元された旧石器時代の森の中を散策しながら楽しめるように構成されている。なお、館内の展示サインは日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語表記としている。



##### ii) 展示の方法とねらい

現地保存型の遺跡博物館施設としての特徴を生かし、常設展示1で最初に2万年前の遺跡そのものを見ることから始まる展示構成は、来館者におおむね好評である。団体の見学も多く、展示説明を希望される場合は、職員及びボランティアスタッフが館内の説明を行いながら一緒にまわっている(新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、ボランティアスタッフによる展示解説活動はほとんどの期間休止した。実施できたのは令和4年1月12日から2月2日まで)。野外展示は、環境学習の場として活用が広がると

ともに、鳥類や両生類、昆虫類が来訪および生息する地域の緑地として機能している。

#### ○常設展示1(地下展示室)

・展示：900㎡の楕円形の大空間に広がる「本物」の遺跡と、壁面に広く映し出される湿地林の風景や昇降式スクリーンでの復元映画の放映などによる演出により、富沢の環境と旧石器人の活動のようすを伝えている(昇降式スクリーンの不具合により、令和4年2月25日からは復元映画を壁面に映し出す演出へと変更した)。

・保存公開：地下展示室では、温湿度の設定値の調整、地下水位については排水ポンプの調整によって、保存・公開に適した状態を維持することに努めた。室内は湿度70%以上を保つようにしているが、外気の湿度の影響を受けることもあったため、平成10年に地下展示室への出入口4ヶ所に扉(自動扉2ヶ所を含む)を設置する工事を行い、湿度の安定を図った。保存処理及び管理については、(株)C&P研究所に委託し、仙台市教育委員会と当館の三者で打合せを行いながら進めた。その際、東北大学工学研究科附属超臨界溶媒工学研究センターの猪股宏氏、東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科の佐々木淑美氏の指導・助言を得た。

※中地下に設置している遺跡スコープは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため使用を休止している。

#### ○常設展示2(1階展示室)

・展示：展示の構成は、順に a. 氷河期へのいざない、b. 富沢での人類の活動をテーマとする展示、c. 富沢の自然環境をテーマとする展示、d. 復元画と立体映像による展示となっている。b・cでの「富沢博士」が謎解きをしながら調査でわかったことを説明していく展示方法や、全体をとおして映像や模型、グラフィックパネルなど、視覚的な面を重視した展示は、大人から子どもまで楽しめる内容となっていて、小・中学生の学習活動に利用されるなど、好感をもたれている。特に立体映像とジオラマ模型を組み合わせた展示は子どもたちに人気が高い。

#### ○野外展示

・植生：仙台周辺には自生していない植物が多いことから、仙台市教育委員会と当館が打合せを行いながら、植生の維持と管理に努めている。その際には東北大学名誉教授の鈴木三男氏、東北大学植物園の牧雅之氏・伊東拓朗氏らに助言・指導を求めながら進めている。また、植物生態調査・DNA分析については、国立大学法人東北大学学術資源研究公開センターへの委託研究として実施した。

②企画展示

◎特別企画展

新型コロナウイルス感染症拡大により県外からの資料借用が限定的となるなどしたため、通常企画展として規模を縮小して実施し、以下に第98回企画展として報告する。

◎企画展

i) 第96回企画展「仙台の遺跡めぐり 富沢からのぞく仙台の歴史」

○会期：5月12日(水)～7月18日(日) (4月23日(金)～6月27日(日)を計画していたが臨時休館により変更)

○開催日数：57日間

○入館者数：3,272人

○会場：企画展示室

○展示内容：開館25周年を迎える地底の森ミュージアムで保存・公開している富沢遺跡を展示の軸とし、富沢遺跡に関連するキーワードから市内の遺跡や歴史を紹介し、「仙台」という地域を再発見してもらうことを目的として展示を行った。また、東日本大震災から10年目を迎えることもあり、遺跡に残る災害痕跡についても紹介した。



第96回企画展チラシ



第96回企画展 展示のようす

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター(4色) B2 500枚, チラシ(表面4色・裏面1色) A4 6,000枚

○関連行事

・関連講座「再発見！仙台の遺跡～発掘調査の変化と仙名城跡・中在家南遺跡について～」

日時：6月5日(土) 13:30～15:00

講師：須貝慎吾氏, 柳澤楓氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場：研修室

参加者：19人



第96回企画展関連講座

・ギャラリートーク

日時：6月12日(土) 13:30～14:30

講師：当館職員 参加者：4人

・関連イベント「歩いてみよう！富沢周辺の遺跡」

日時：6月13日(日) ①10:00～11:30

②13:30～15:00

会場：地底の森ミュージアム周辺(館外)

参加者：①10人, ②13人

ii) 第97回企画展「つなぐ・つながる富沢遺跡 ～にっぽんのミュージアムめぐり～」

○会期：8月6日(金)～10月3日(日)

○開催日数：49日間

○入館者数：3,467人

○会場：企画展示室

○展示内容：富沢遺跡保存館と共通点のある博物館という視点で、日本各地に所在するユニークな博物館17施設を取り上げ、当館が持つ展示施設としての多面的特徴、さまざまな視点から楽しめる展示要素を紹介した。あわせて、コロナ後に旅行先として楽しめる博物館を紹介する機会となるよう、各館の情報発信を行った。

○展示構成：実物資料・パネルによる展示



第97回企画展 展示のようす



第98回企画展 展示のようす

iii) 第98回企画展「発掘！ 食の百貨店」

○会期：10月29日(金)～12月19日(日)

○開催日数：42日間

○入館者数：3,857人

○会場：企画展示室

○展示内容：いま私たちが食べている食材は、いつ頃から利用されるようになったのか、どんな料理法があったのかなど、考古資料に残された手がかりをもとに、現在につながる食を紹介した。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター（4色）B2 600枚、チラシ（表面4色）A4 8,000枚、パンフレット（16ページ・カラー）A4 600部

○広報：市政だより・ホームページ・各種広報誌などにより宣伝を行った。また、ポスター・チラシを関係機関・各所に配布した。

○協力機関：会津美里町教育委員会、岩手県、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、沖縄県立博物館・美術館、奥松島縄文村歴史資料館、小矢部市教育委員会、



第98回企画展関連講座

神奈川県教育委員会、七ヶ浜町教育委員会、仙台市教育委員会、仙台市歴史民俗資料館、田原本町教育委員会、豊丘村教育委員会、豊丘村歴史資料館、東村山市ふるさと歴史館、北海道立埋蔵文化財センター、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館（五十音順）

○関連行事

・関連講座「よみがえる！ 古代の菓子と料理」

日時：12月4日(土) 14:30～16:00

講師：前川佳代氏(奈良女子大学協力研究員)

会場：研修室 参加者：24人

・ギャラリートーク

日時：11月27日(土) 14:00～15:00

講師：当館職員 参加者：13人



第98回企画展ポスター

iv) 第99回企画展「石っていろいろ！～仙台のミュージアムの“石”大集合！～」

○会期：1月21日(金)～3月13日(日)

○開催日数：43日間

○入館者数：4,411人

○会場：企画展示室

○展示内容：旧石器時代と関わりの深い“石”をテーマに、仙台市内の多様な分野のミュージアムが所蔵する様々な

“石”の資料展示を行った。また、関連企画として、ワークシートに回答すると挑戦することができる“石ガチャ”や、他のミュージアム施設と連携したワークショップを開催した。

○印刷物：ポスター（4色）B2 250枚，チラシ（表面4色・裏面1色）A4 3,500枚，ワークシート（単色）A4 1,670枚

○広報：市政だより・ホームページ・各種広報誌などにより宣伝を行った。また，ポスター・チラシを関係機関・各所に配布した。

○共催機関：東北大学総合学術博物館

○協力機関：スリーエム仙台市科学館，せんだい3.11メモリアル交流館，仙台市縄文の森広場，仙台市天文台，仙台市博物館，仙台市歴史民俗資料館，仙台文学館，仙台湾鳴り砂探究会，東北学院大学博物館，東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館，東北福祉大学・鉄道交流ステーション，みちのく博物楽団（五十音順）



第99回企画展ポスター



第99回企画展 展示のようす



第99回企画展関連企画（石ガチャ）

○関連行事

・関連イベント「ワークシート【ストーンマスターへの道】& “石”ガチャ

日時：会期中 会場：企画展示室 参加者：1,670人

・関連イベント「鳴り砂を鳴らしてみよう！」

日時：①1月30日（日） 10:00～16:00

②2月6日（日） 10:00～16:00〈新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止〉

③3月6日（日） 10:00～16:00

協力：仙台湾鳴り砂探究会

会場：展望ラウンジ，研修室

参加者：①91人，③89人

・関連イベント「頁岩みたいなきん作り」

日時：2月13日（日） 10:00～12:00，13:30～15:30

会場：研修室 参加者：のべ32人

・関連イベント「三滝玄武岩の石臼でコーヒー豆挽き体験」

日時：2月20日（日） 13:30～15:30

協力：仙台市歴史民俗資料館

会場：研修室 参加者：64人

・関連イベント「化石クリーニング体験&ギャラリートーク」

日時：2月23日（水・祝） 10:00～12:00，13:30～15:30

協力：東北大学総合学術博物館，みちのく博物楽団

会場：研修室 参加者：のべ29人

・関連イベント「松島の海底板碑で拓本体験&ギャラリートーク」

日時：2月27日（日） 13:30～14:30，14:45～15:45

協力：東北学院大学博物館

会場：研修室 参加者：のべ16人

・関連イベント「ベガ号がやってくる！月の観望会と“石”のおはなし」

日時：3月10日（木） 17:30～19:30

協力：仙台市天文台

会場：研修室，駐車場 参加者：13人

## (2) 普及啓発事業

### ① 学校教育との連携

#### i) 利用状況

令和3年度の総入館者数における小・中学生の割合は21%であり、そのうちの49%が学校利用であった。仙台市内の学校の利用状況を見てみると、小学校は、臨時休館明けの5月12日以降から利用が始まり、5月から7月までに集中した。近隣の小学校はそれ以降の10月から1月まで利用が続いた。中学校の利用は職場体験の2校(5校申込3校中止)の他に全部で7校の利用があった。

#### ii) 利用学習

仙台市内の小・中学校と連携して授業を実践する事業である。各校における博物館活用を、当館と縄文の森広場の職員とボランティアが授業を行う形で実施してきた。今年度は申込み後にキャンセルをした学校はなく、13校884人が当館を利用した。いずれも小学6年生の利用であった。密集、密接を避けるため、児童数に応じて2から4つのグループに分け「地下展示室見学」「1階展示室見学」「石器使用体験」「狩人テント見学」の学習プログラムをローテーションする形で実施した。

#### iii) 職場体験活動

市内中学校からの職場体験活動の申し込みに基づき、2校6人の中学生を受け入れた。1回につき3日間4人程度を受け入れて実施した。体験内容は、館内掲示物の作成、図書整理、野外展示の巡回・記録撮影などである。

#### iv) 博物館学芸員課程実務実習

県内の大学に通う学生、もしくは県外の大学に在籍する宮城県内出身の学生を中心に希望者(最大定員12人)を受け入れている。9月7日(火)～9月11日(土)の期間に、東北生活文化大学3人、東北学院大学2人、尚絅学院大学2人、



博物館学芸員課程実務実習

宮城学院女子大学1人、盛岡大学1人、東北芸術工科大学1人、計10人が参加した。

#### v) 教職員機関研修

学校教育との連携を推進するため、仙台市教育センターの機関研修として行っている。8月6日(金)に実施し、2人が参加した。

#### vi) 学生サポーター

博物館における接客経験や社会人としての意識を養うことを目的として、仙台市近郊の大学生有志にサポーターとして登録してもらい、当館が実施するイベントなどを補助してもらう事業である。1大学6人(東北学院大学)の登録があり、10月2日(土)、10月23日(土)に2人が活動した。

### ② 各種普及活動

#### i) 体験学習

旧石器時代のテーマミュージアムとして、旧石器時代の生活技術などについて、体験を通して学ぶ事業を積極的に実施した。また、水田遺構が多数発見されている富沢遺跡の特徴を紹介する体験教室「親子でつくろう古代米」など、指定管理業務以外にも自主財源事業を実施した。

#### ○ たのしい地底の森教室

企画展の展示解説・関連イベント、富沢遺跡や野外展示「氷河期の森」を活用したイベントなど、来館者が当館に親しみをもってもらえるような体験や講座を実施した。事業例としては「仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会」の協力による地底の森ミュージアムをテーマにしたオリジナル紙芝居の上演や、収穫した古代米の稲わらを使った「正月飾りをつくろう」、企画展関連イベントなどを実施した。なお、5月のゴールデンウィークの回などが中止となり、計12回開催した。

日程：6～3月 月1～2回程度の土・日・祝



たのしい地底の森教室「紙芝居の上演」

場所：地下展示室・研修室・企画展示室・展望ラウンジ・  
野外展示「氷河期の森」他

参加者：のべ463人

○体験！発見！地底の森

地底の森フェスタ2021・たのしい地底の森教室の内容及び開催日程を変更し、「体験！発見！地底の森」として4日間に日程を分散させ、日替わりメニューの体験活動を行った。基本的に事前申込制で実施した。事業の内容等についてはボランティア会と企画をたて、事前準備作業はボランティア会の協力を得ながら実施した。実施にあたっては、仙台市立仙台工業高等学校模型・動画部、仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会にも協力いただいた。

日時：10月9日(土) 10:00～12:00 / 13:00～15:00  
内容：午前「やり投げ大会」、午後「トリック or トリート  
楽しいハロウィンツリーづくり」

日時：10月10日(日) 10:00～12:00 / 13:30～14:30  
内容：午前「やり投げ大会」、午後「紙芝居上演 冒険し  
んちゃん地底のたび」

日時：10月11日(月) 10:30～12:00 / 13:30～15:15  
内容：午前「森のクイズ」、午後「古代米で染まるかな？」

日時：10月12日(火) 10:30～12:00 / 13:30～15:00  
内容：午前「森のクイズ」、午後「ミニミニ石庖丁づくり」  
参加者：のべ141人



体験！発見！地底の森(楽しいハロウィンツリーづくり)

○体験コーナー「石器をつかってみよう」

日時：日曜・祝日の13:30～15:00

対象：当日の入館者

内容：実際に紙を切って、石器の切れ味を体験してもらう。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、令和2年3月1日以降休止継続中。

○歴史的生活体験教室「親子でつくろう古代米」

事業団の自主事業。古代米(紫黒米)の栽培・収穫をとおりして、農業の歴史を実体験として感じてもらうことを目的とした。さらに館隣接地での栽培により、地域住民などとの交流を図ることで、当館が市民協働・連携など、地域活性化の拠点となることを目標とした。

5月15日(土) オリエンテーション・田植え 参加者：26人

6月19日(土)・20日(日) 土器づくり 参加者：26人

7月17日(土) 石庖丁づくり 参加者：24人

9月19日(日) 稲刈り 参加者：25人

9月26日(日) 土器焼き(任意参加) 参加者：12人

11月3日(水・祝) 収穫祭 参加者：21人



親子でつくろう古代米(稲刈り)

【古代米の稲わらで正月飾りづくり】

栽培した稲わらを活用し、野外展示「氷河期の森」の植物を利用して、正月飾りの飾り付けを体験する事業を行い、古代米づくりの活動の紹介や古代米の販売を促進した。

日時：12月18日(土) 11:00～11:30, 13:30～14:00,  
14:00～14:30

会場：研修室 参加者：のべ34人

○地域交流促進事業「2021 森の響き」

事業団の自主事業。地域の方々が気楽に参加しやすい形で、当館をより身近に感じられるよう、継続性を持った事業展開を意識し、地域の団体や組織との連携をさらに進めることを目標に実施した。

今年度は演奏を軸とした「コンサート編」に、新たに「たき火と星編」を加えた2つを実施した。「コンサート編」では、宮城県仙台三桜高等学校音楽部が閉館後の地下展示室で演奏した。実施にあたっては、事前申込で観客数制限・規制退場など感染予防に十分に配慮した。「たき火と星編」は「ながまち学びネット」と共催した。また観望会講師として天文ボランティア「うちゅうせん」を招き、事前申込制で人数制限をして実施した。天候不良のため、観望会は館

## 地底の森ミュージアム

内での映像を用いた説明会となった。

### 【コンサート編】

日時：10月30日(土) 17:30～18:00

会場：地下展示室 参加者：46人



2021 森の響き コン서트編 (仙台三桜高等学校音楽部)

### 【たき火と星編】

日時：3月5日(土) 17:30～19:00

会場：芝生広場, 研修室 参加者：15人



2021 森の響き たき火と星編

### ○歴史・芸術融合事業「ミュージアム・シアター“狩人登場”」

事業団の自主事業。演劇の手法を通じて当館の展示をより理解してもらう「ミュージアム・シアター」として、「劇団短距離男道ミサイル」の劇団員が、旧石器時代の狩人に扮して館内外に登場した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館者との接触や交流を中心としたこれまでの手法ではなく、鑑賞型として一定の距離を取った上で、学校団体や一般来館者向けに実施した。また、次年度に向けて演劇要素を強めた内容を考案した。

開催期間：5～8月(前期), 11～2月(後期)

回数：20回



狩人登場 (一般来館者向け)

### ○映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」

事業団の自主事業。記録撮影にまつわるワークショップを開催し、参加者一人一人が思う当館の魅力を撮影してもらった。収集した写真や動画は、館内展示・YouTube・SNS・ホームページなどで公開するとともに、映像記録として蓄積・保管している。令和3年度は63枚の写真を収集し、動画を4作品制作した。

### 【フォトグラファー・門傳一彦さんと一緒に野外展示「氷河期の森」撮影会】

日時：6月27日(日) 10:30～12:00

講師：門傳一彦氏(映像クリエイター)

会場：研修室・野外展示「氷河期の森」

参加者：13人

### 【野外展示「氷河期の森」を撮影してオリジナルカードをつくろう！】

日時：①8月15日(日) 10:30～11:30, 13:30～14:30

②8月29日(日) 10:30～11:30, 13:30～14:30

〈②は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止〉

会場：研修室, 野外展示「氷河期の森」

参加者：のべ31人

### 【フォトグラファー・門傳一彦さんと一緒に秋の野外展示「氷河期の森」撮影会】

日時：11月20日(土) 10:00～11:15, 11:30～12:45

講師：門傳一彦氏(映像クリエイター)

会場：研修室・野外展示「氷河期の森」

参加者：のべ11人



地底の森アーカイブス 撮影ワークショップ

ii) 各種講座

○考古学講座

生涯学習事業の一環として、「遺跡を読み解く科学」をテーマに、一般を対象に最新の研究成果を取り上げる講座を2回実施した。会場とオンライン配信を併用して行い、オンライン配信には県外の方からも申し込みいただいた。講師にはオンラインで登壇いただき実施した。

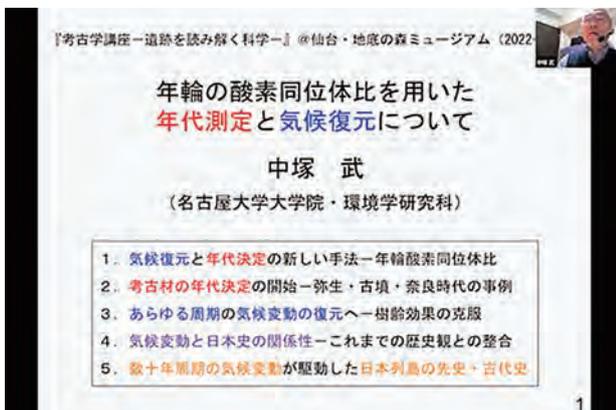
第1回 「年輪の酸素同位体比を用いた年代測定と気候復元について」

日時：2月19日(土) 13:30～15:00

講師：中塚 武氏(名古屋大学大学院環境学研究科 教授)

会場：研修室・オンライン

参加者：70人(うちオンライン44人)



第1回考古学講座

第2回 「黒曜石研究が明らかにするハンター達の旅」

日時：3月12日(土) 13:30～15:00

講師：池谷信之氏(明治大学黒曜石研究センター 特任教授)

会場：研修室・オンライン

参加者：72人(うちオンライン43人)



第2回考古学講座

○富沢ゼミ

富沢遺跡を中心に、地域の歴史や文化財を紹介する講座を実施した。会場参加の定員が制限されたため、第2回はオンライン配信を併用して行った。

第1回 「進化する細野修一の復元画—未知の世界への案内人」

日時：7月30日(金) 15:00～16:30

講師：斎野裕彦氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場：研修室 参加者：17人



第1回富沢ゼミ

第2回 「開館25周年記念 2万年の軌跡～地底の森と旧石器人～」

日時：12月11日(土) 13:30～15:00

講師：佐藤祐輔(仙台市縄文の森広場 所長)

会場：研修室・オンライン



第2回富沢ゼミ

参加者：62人(うちオンライン33人)

### iii) 市民文化財研究員

応募者4人を対象に、学芸員による講義や各種体験、遺跡見学会など、遺跡や考古学に関する学習支援を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大により、5月26日からの開始となった。1年間の活動成果として、自身で設定したテーマをもとに作成したレポートを当館ホームページにて公開している。



市民文化財研究員(館外活動)

### iv) ボランティア活動

ボランティア登録者は、昨年度からの継続者61人に、新規2人を加えて63人であった。臨時休館中は活動自粛を要請し、再開後も来館者との対面活動は実施せず、イベントの準備作業、野外展示の日常管理補助を中心に活動を行った。来館者に対する展示解説活動は1月12日～2月2日のみ実施できた。1年間のボランティア活動の延べ実績は430人、914時間であった。毎月第1日曜日に実施している月例会のうち4・5・9・2・3月は新型コロナウイルス感染症対策として中止した。

また、解説活動再開に向けたスキルアップを目的として、仙台市縄文の森広場との合同による遺跡見学と講座を伴う研修を1回と、実技研修を1回、育成講座1回を行った。



ボランティア活動の様子(イベント準備作業)

### ・ボランティア研修

日時：①10月21日(木) 10:00～11:30, 13:30～15:00

②11月12日(金) 10:00～11:30, 13:30～15:00

会場：①山田上ノ台遺跡 ②地下展示室, 研修室

講師：①仙台市文化財課職員 ②遊垣誠宏氏(株式会社C & P 研究所)

参加者：①35人 ②31人



ボランティア研修

### ・ボランティア実技研修

「写真で伝える野外展示「氷河期の森」の魅力」

講師：門傳一彦氏(映像クリエイター)

日時：7月19日(月) 14:30～16:00, 15:30～17:00

参加者：のべ26人

### ・育成講座「やさしい日本語講座」

日時：〈第1回 やさしい日本語とは?〉

3月24日(木) 14:00～14:30

〈第2回 やさしい日本語の使い方(実践編)〉

3月24日(木) 14:30～15:00

動画提供：公益財団法人 仙台観光国際協会

会場：研修室・オンライン

参加者：10人(うちオンライン6人)

### v) 運営懇談会

当館に隣接する町内会・小中学校・市民センターなどの方々に参加を依頼し、館事業を紹介し、運営のあり方について意見交換を行う場である。アフターコロナの学校連携について情報収集することを目的として、近隣学校への聞き取り調査を実施した。

①鹿野小学校 1月13日(木) 9:30～10:30

②長町南小学校 1月26日(水) 13:30～14:30

## vi) 長町まちかど教室

近隣の長町商店街が主催している事業で、商店街の店主やスタッフが講師となり、専門店のプロならではの「ワザ」「コツ」「まめ知識」を無料で紹介する企画である。まちかど教室自体が中止となったため実施していない。

## vii) 出前対応

学校・市民センターなどからの依頼を受け、出前対応を行い、地域貢献を図るとともに館の広報にも努めた。

- ・大野田小学校5年生  
4月27日(火) 10:30～12:30  
4月28日(水) 10:30～12:30  
6月30日(水) 10:45～12:20【オンライン対応】
- ・大野田小学校職員研修  
7月27日(火) 15:00～16:00
- ・太白区中央市民センターほか「長町キッズクラブ」  
8月5日(木) 14:00～15:00
- ・島根県三瓶小豆原埋没林公園【オンライン対応】  
9月18日(土) 14:00～15:30
- ・大野田小学校社会学級  
11月19日(金) 10:00～12:00
- ・太子堂すいせんこども園  
12月7日(火) 10:00～11:00
- ・八本松市民センター 1月8日(土) 10:00～11:00
- ・長町南小学校3年生 1月26日(水) 10:35～11:20



出前対応(大野田小学校社会学級)

## viii) 学校・地域団体との協働事業

- ・富沢市民センター  
ふれあいまつり2021「施設紹介展示」 10月2日(土)



学校・地域団体との協働事業(施設紹介展示)

## ix) 国際交流

大韓民国の全谷先史博物館(漣川郡)開催の国際オンラインワークショップミーティングへ参加した。また、石牡里博物館(公州市)が刊行した『世界の旧石器文化と博物館』に「仙台市富沢遺跡保存館の整備と教育普及の取り組み」を寄稿した。

## x) 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた情報発信

臨時休館中、野外展示「氷河期の森」を散策している来館者に植栽植物が展示品であり、貴重な資料であることを知っていただくことを目的に、花など見ごろを迎えている植物の名前や特徴などを紹介する表示を掲出した。またボランティアスタッフによる展示解説活動ができなくなったため、令和2年度より開始した、見学ポイントや遺跡の重要性などの概要をまとめた「みどころマップ」の配布を継続して行った。

そのほか北海道博物館から始まったオンラインの取り組み「おうちでミュージアム」に参加し、当館 Facebook を通して「野外展示のようす」などの情報発信も積極的に行った。

## (3) 調査・研究事業

## ○遺跡に関する各種分析調査と遺跡保存

保存公開している遺跡の現状を把握し、問題への対処などを検討するために保存処理検討会を毎年開催している。令和3年度は開館25周年にあたることから、当館設立の主たる担当者を招き、遺跡の現状を確認・共有し、ポリシロキサンを用いた保存処理方法を評価することを目的に、拡大版の保存処理検討会を11月25日(木)に実施した。参加者は、猪股宏氏(東北大学工学研究科附属超臨界溶媒工学研究センター)、佐々木淑美氏(東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科)、白鳥良一氏・田中則和氏・木村浩二氏・斎野裕彦氏(当館設立の主たる担当者)、長谷川隆二管理係長・工藤慶次郎整備活用係長・水野沙織主任・五十

嵐愛主事・妹尾一樹主事(仙台市教育委員会文化財課), 遊垣誠宏氏(株式会社C & P 研究所), 武山剛久・平塚幸人・鈴木英梨(仙台市富沢遺跡保存館)である。

参加者からは、遺跡の現状について、樹木は比較的良好な状態を保っている一方、支持体や土壌表面凹部などの劣化や劣化要因への対処、保存処理の情報発信強化などが求められ、今後の遺跡保存の方向性・考え方に関して活発な意見交換を行った。

保存公開している遺跡の現状を定量的に把握するための、地下水位や温湿度の測定結果などについては、近年の分析調査データを取りまとめする業務も実施した。学校法人東北芸術工科大学と、土壌表面の析出物及び藻類等についての共同研究を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。東北大学総合学術博物館に遺跡状態のデジタル記録化に向けた協力を求め、2月21日ドローンなどで撮影作業を実施した。

#### ○研究報告の刊行

富沢遺跡保存館の調査研究活動の成果を発表し、これからの博物館運営に役立てることを目的として、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2021』を刊行した。開館から25年間の保存処理作業の概要をまとめて報告する保存処理特集号とした。あわせて11月25日に実施した保存処理検討会拡大版の記録、猪股宏氏「富沢遺跡の保存に係る物理化学的視点」、白鳥良一氏「遺跡の保存と展示」、田中則和氏「地下遺構の保存処理は展示リニューアル計画に位置付けて推進を望む」、木村浩二氏「保存遺跡の活用」、斎野裕彦氏「富沢遺跡の意義と保存公開方法の世界発信」、竹田幸司氏「ポリシロキサンを用いた遺跡保存と情報発信」、遊垣誠宏氏「シリコンコポリマーの機能と効果」の各原稿を掲載した。

## 2. 施設管理

### (1) 定例保守

毎月1回保守点検日を設け、再委託業務仕様書に基づき建物・設備の定期保守点検を実施した。

### (2) 施設・設備などの修繕

開館から25年を経過した施設・設備は経年劣化による不具合が多発しており、緊急性を優先し修繕を行った。

①施設の雨漏れ対策：東側壁面目地及び氷河期の森出入口床面目地の修繕。

- ②令和3年2月13日に発生した地震による被災箇所の修繕。
- ③消防用設備：定期点検で指摘のあった不良器具の交換修繕。
- ④空調設備：機器・設備などの交換修繕を随時実施したが、地下展示室の温湿度管理システムに不調があり、不安定な状態は改善されていない。
- ⑤トイレ設備：不具合が発生した器具類の交換及び手洗い水栓自動化修繕。
- ⑥野外展示：氷河期の森緑地修繕
- ⑦自動ドア：部品の交換修繕
- ⑧受変電設備：キュービクル冷却ファンの交換修繕

## (3) 新型コロナウイルス感染症対策

「スタッフのマスク着用」「手洗い・うがい、アルコール消毒の励行」「消毒液を使用したこまめな清掃」「お客様との一定の距離の確保」「受付・案内での透明アクリル板の設置、料金やチケットのトレーでの受渡し」などの感染対策を講じた。特に展示室内およびトイレなどの来館者が手を触れる可能性がある場所は、定時でアルコール消毒を実施している。また来館者に対しても、手指消毒用アルコールの設置・マスクの着用(咳エチケット)・来館者同士の距離確保・入場制限・発熱や体調不良者の入館辞退を依頼し、感染拡大防止に努めた。

## 3. 利用状況

令和3年度の開館日数は245日、入館者数は22,126人であった。前年度入館者数(17,134人)と比べ4,992人の増となっている。令和3年3月26日から5月11日まで、また8月31日から9月12日まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和4年3月17日は前日夜に発生した福島県沖地震対応のため臨時休館となったが、9月と10月を除いたすべての月で前年比100%以上、特に5月、6月、3月は200%以上と、入館者数はコロナ禍以前の数字に少しずつ戻ってきている。

入館者の内訳を見ると、全体に占める有料入館者の割合は49%であった。その80%以上が一般、次いで小・中学生となっている。なお、平成8年11月2日の開館から令和4年3月31日までの総入場者数は990,716人である。

地域に根差し、活性化に資することを引き続き重視し、生涯学習活動に取り組んだ。「体験！発見！地底の森2021」開催時の仙台工業高等学校模型・動画部との協働、長町南小学校・大野田小学校など地域の小学校への出前授業などである。加えて、令和3年度は近隣の市民センター

の催しにも積極的に出前を行った。太白区中央市民センターなどが開催した「ながまちキッズくらぶ」への出前、富沢市民センターまつり参加、八本松市民センターへの出前

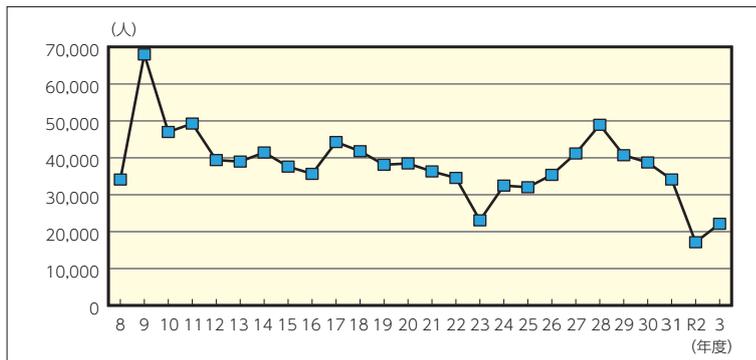
講座などが挙げられる。

周辺地域の高校と連携を深める「探求学習」は、例年同様に宮城県仙台三桜高等学校と開催した。

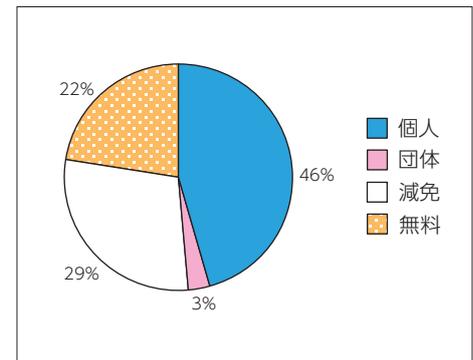
月別入館者数 (令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

月	有 料							無 料					合計
	個 人			団 体			小計	減 免			無 料 入館者	小計	
	一般	高校生	小・中学生	一般	高校生	小・中学生		一般	高校生	小・中学生			
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	254	254	254
5	371	6	1	10	0	0	388	117	26	432	202	777	1,165
6	823	5	7	9	0	0	844	159	0	846	437	1,442	2,286
7	1,099	17	39	64	1	0	1,220	158	25	698	438	1,319	2,539
8	1,405	33	91	35	0	1	1,565	193	0	618	444	1,255	2,820
9	457	6	9	17	0	3	492	52	0	61	308	421	913
10	899	15	18	42	1	42	1,017	180	19	346	450	995	2,012
11	833	35	69	86	2	239	1,264	418	2	308	400	1,128	2,392
12	608	2	25	28	0	0	663	146	0	89	450	685	1,348
1	851	13	28	21	27	1	941	157	0	431	466	1,054	1,995
2	1,178	8	11	27	0	1	1,225	164	0	308	521	993	2,218
3	1,078	26	32	30	2	4	1,172	200	0	248	564	1,012	2,184
計	9,602	166	330	369	33	291	10,791	1,944	72	4,385	4,934	11,335	22,126

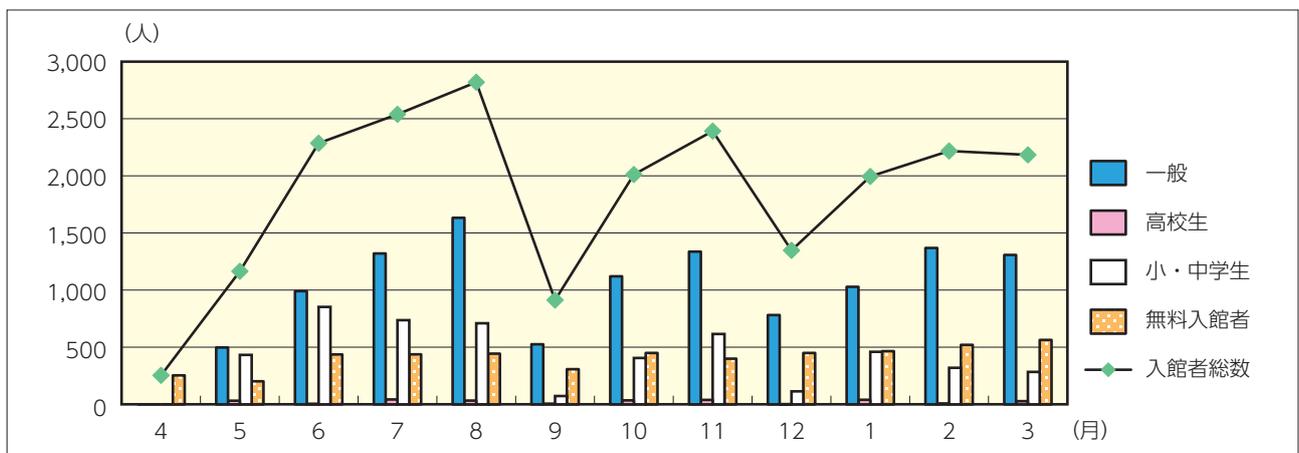
開館年度からの入館者数の推移



入館者内訳



月別入館者数



## 4. 入館者アンケート

入館者の貴重な意見を活かした館活動を目指して、アンケートを実施している。記入された内容・要望・意見については館内で検討を行い、そのフィードバックを『お客様の声へのお答え』として展望ラウンジに設置した掲示板にてお知らせしている。同時に要望や改善については、できるだけ迅速に対応するよう努めている。アンケート用紙は常時所定の場所に設置し、毎日回収している。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から休止した。

## 5. 令和4年度事業計画

### (1) 展示事業

#### ① 常設展示

##### i) 常設展示1 (地下展示室)

富沢遺跡の発掘調査面の展示

##### ii) 常設展示2 (1階展示室)

出土資料をもとに調査成果を分かり易く解説した展示

##### iii) 野外展示「氷河期の森」

2万年前の植生を復元した展示

#### ② 企画展示

##### ◎ 特別企画展

「遺跡を科学する (仮)」

会期：1月5日(木)～2月26日(日)

内容：さまざまな遺跡から出土した資料をもとに、歴史の研究は進められている。なかでも近年の科学技術の進展に伴い、分析調査は対象が多角化し、精度が増して、これまで知られることの無かった事実が次々と判明している。本展示は、30年を経過した富沢遺跡の分析調査成果と最新の分析調査を比較しながら紹介し、明らかとなった過去の環境や人々の暮らしを紹介する。

##### ○ 関連行事

###### ・ ギャラリートーク

日時：2月11日(土) 13:30～14:30

講師：当館職員

##### ◎ 企画展

###### i) 第100回企画展

「仙台の遺跡めぐり 富沢からのぞく仙台の歴史」

4月22日(金)～7月18日(祝・月)

内容：発掘調査の成果をもとに仙台市内の遺跡を紹介し、身近な地域の歴史や文化財を知るきっかけとする企画展。今回は、第100回目となることから、富沢遺跡の発掘調査成果を振り返り、最新の情報も紹介し、富沢遺跡のこれからを考える展示を行った。

##### ○ 関連行事

###### ・ 関連講座「発掘！富沢遺跡」

日時：5月28日(土) 13:30～15:00

講師：早川太陽氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場：研修室(オンライン配信も実施)

###### ・ ギャラリートーク

日時：5月15日(日)、6月5日(日)、7月10日(日)

各日13:30～14:00

講師：当館職員 会場：企画展示室

###### ・ 関連イベント「探検！富沢遺跡～展示室をまわって謎を解こう！～」

日時：6月26日(日) 13:30～15:00

会場：企画展示室・常設展示室

###### ii) 第101回企画展「ガラスにまつわるエトセトラ」

会期：9月2日(金)～11月27日(日)

内容：仙台を拠点に活動するガラス作家・村山耕二氏の作品と、宮城・仙台の遺跡から出土した様々な時代のガラス製品を紹介する企画展。古代から人々を魅了し続けるガラスの魅力に迫る。また、関連グッズとして、地底の森ミュージアムがある長町南の砂を溶かして制作したガラス作品を販売する。

##### ○ 関連行事

###### ・ 関連講座「ガラスのはなし」

日時：10月30日(日) 13:30～15:00

講師：村山耕二氏(ガラス作家)

会場：研修室(オンライン配信も実施)

###### ・ ギャラリートーク

日時：10月2日(日)、11月6日(日) 各日15:00～15:30

講師：当館職員

会場：企画展示室

###### ・ 関連イベント「鳴り砂をならしてみよう！」

日時：9月18日(日) 10:00～12:00, 13:00～16:00

協力：仙台湾鳴り砂探究会 会場：展望ラウンジ

###### ・ 「長町南の砂から生まれたガラス玉でアクセサリーづくり～管玉と小玉をそえて～」

日時：①10月23日(日) 13:30～15:00

②11月20日(日) 13:30～15:00

会場：研修室

## (2) 普及啓発事業

### ①学校教育との連携

#### i) 利用学習（縄文の森広場と合同して実施）

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主対象とし、通年で当館の常設展示の見学・体験学習と縄文の森広場の各種縄文体験による学習を行う。

#### ii) 職場体験活動

市内中学校からの要請に応じて、通年で職場体験活動を受け入れる。

#### iii) 博物館実務実習

学芸員資格取得を目指す大学生（定員10人）を受け入れ、実習を行う。

期日：9月6日（火）～9月10日（土）

#### iv) 教職員利用研修

市内小・中学校の教職員を対象として、当館の展示と学習活動を紹介し、学校教育との連携のあり方を検討する。

日時：8月5日（金） 14:00～16:30

### ②考古学講座

先史時代に関する考古学・環境などのテーマを設定し、専門家による講座を2回実施する（縄文の森広場との連携事業）。

#### ・第1回講座「未定」

期日：2月11日（土） 13:30～15:00

講師：森先一貴氏（東京大学大学院准教授）

会場：研修室

#### ・第2回講座「未定」

期日：2月18日（土） 13:30～15:00

講師：門脇誠二氏（名古屋大学大学院教授）

会場：研修室

### ③富沢ゼミ

富沢遺跡や、その周辺地域の歴史・文化財を紹介する。また、令和4年度より宮城県内の考古資料を取り扱うミュージアムのスタッフによる講座を開催する。

第1回「昭和時代の写真で振り返る「太白区」～地底の森ミュージアムができるちょっと前～」

講師：佐藤正実氏（風の時編集部 代表）

日時：9月11日（日） 13:30～15:00

会場：研修室

第2回「みやぎの考古なミュージアム①～祝30周年！奥

松島縄文村歴史資料館～」

講師：菅原弘樹氏（奥松島縄文村歴史資料館 館長）

日時：11月19日（土） 14:30～16:00

会場：研修室（オンライン配信も予定）

### ④たのしい地底の森教室

館職員が、当館に関わる様々なテーマに関して行う体験型イベント。各種体験教室や野外展示を活用した観察会なども組み込み、子どもが楽しめる内容を中心に実施。

期日：土・日・祝を中心に毎月1回程度 13:30～14:30

（内容により事前申込制で実施する）

### ⑤地底の森フェスタ2022

一般市民を対象として館西側の芝生広場を会場に「やり投げ」・「編布コーナー」・「石器コーナー」・「氷河期の森の名札づくり」などの体験活動を行う。

日時：10月9日（日） 10:00～15:00

### ⑥体験コーナー「石器をつかってみよう」

学芸員やボランティアが製作した石器を使用して、型紙を切る体験を実施する。

日時：日曜日・祝日 13:30～15:00（館事業により休止する場合もある）

### ⑦市民文化財研究員の育成

公募した市民（定員10人）が、1年間にわたり週1回当館にて考古学や遺跡に関する学習活動を行う。館職員は、講義や遺跡見学会などの支援を行う。研究員は、それぞれのテーマに基づき自主学习を行い、その成果を活動報告にまとめる。

### ⑧ボランティア育成

市民文化財研究員を修了した希望者及び一般市民から募集し、展示解説や館行事の準備や補助などを行っていただくボランティアスタッフを養成する。また、登録している現ボランティアのスキルアップ研修も実施する（縄文の森広場との連携事業）。

#### i) 新規ボランティア養成講座

オリエンテーション：5月29日（日）

第1回：6月25日（土）

第2回：7月23日（土）

第3回：8月21日（日）

第4回：11月6日（日）

ii) ボランティア育成講座

第1回 講師：未定

日時：12月11日(日) 13:30～15:00

第2回 講師：未定

日時：3月12日(日) 13:30～15:00

iii) ボランティア遺跡見学会(縄文の森広場との合同見学会)

日程：11月 場所：仙台市内の遺跡発掘調査現場

iv) ボランティア実技研修

日時：11月24日(木) 11:00～13:30

⑨地域や大学との連携

地域の行事には積極的に参加・協働し、周辺の学校や社会教育施設、並びに地域住民とともに地域文化の中核となる博物館をめざす。また市内大学と連携し、学生サポーターとの協働も進めていく。

i) 地域・近隣学校などとの運営懇談会開催

ii) 地域・近隣学校などへの出前対応

iii) 体験学習事業での学生ボランティアとの協働

⑩インターネットおよび SNS による情報発信

企画展の開催や体験活動などの情報を広く一般の方々に提供するため、ホームページを開設し、常時更新しながら情報発信を行う。また Facebook や YouTube での情報発信も行う。

⑪事業団の自主事業

i) 歴史的生活体験教室「親子でつくろう古代米」

小学校3年生以上とその保護者20組を募集し、古代米の栽培・収穫を通して農業の歴史を実体験して感じてもらう事業として7回の教室を実施する。関連イベントとして、12月18日(日)入館者を対象に「古代米の稲わらで正月飾りづくり」を実施する。

第1回 5月14日(土)：オリエンテーション・田植え

第2回 6月18・19日(土・日)：土器づくり

第3回 7月2日(土)・9日(土)：田んぼ探検・草取り

第4回 7月16日(土)：石庖丁づくり

第5回 9月17日(土)：稲刈り

第6回 9月24日(土)：土器焼き

第7回 11月5日(土)：収穫祭

ii) 歴史・芸術融合事業

「ミュージアム・シアター“狩人登場！”」

市内を中心に演劇などの表現で活動している劇団「短距離男道ミサイル」の劇団員が旧石器時代の狩人に扮し、館内外にて狩人出現とパフォーマンスを行う。

開催期間：6月～3月 25回程度

iii) 地域交流促進事業「2022森の響き」

地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすい形で、野外展示「氷河期の森」の価値を高めることを目的として実施する。

コンサート編 日時：10月29日(土)

17:30～18:00

たき火と星編 日時：11月23日(祝・水)

17:30～19:00

iv) 映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」

野外展示「氷河期の森」の撮影ワークショップなどを通して参加者が撮影した写真や動画を収集し、館内での展示や YouTube での公開を行う。また令和4年度は、オンライン限定イベントや、VR 技術を使用した動画制作を予定している。

・「撮って伝える！野外展示「氷河期の森」の魅力」

日時：〈第1回〉8月28日(日) 13:00～15:30

〈第2回〉9月25日(日) 13:00～15:30

講師：門傳一彦氏(映像クリエイター)

会場：研修室、野外展示「氷河期の森」

・「富沢博士に聞いてみよう！～地底の森ミュージアムに旧石器時代の狩人出現！？～」

日時：8月23日(火) 18:00～18:45【オンライン】

### (3) 調査・研究事業

#### ①調査研究報告書の刊行

館職員・ボランティアスタッフなどによる考古学に関する調査研究活動及び研修活動の成果などを縄文の森広場と合同で「調査研究報告書」として刊行する。

#### ②遺構の各種分析調査

地下の遺構面の維持・管理のため、専門家の指導・助言を頂きながら、適正な保存・管理を行うために遺跡保存処理検討会を2回実施する。また25年を経過した遺跡の現状と保存処理方法について、外部有識者に意見・評価を求め、より良い遺跡保存のあり方を検討していくための遺跡保存研究会を行う。

保存処理検討会 第1回：6月 第2回：12月予定  
遺跡保存研究会 1月予定

#### ③野外展示「氷河期の森」植生検討会・植生景観調査

野外展示「氷河期の森」の植栽の維持管理のため、植生検討会と植生調査を実施し、氷河期の森の維持について専門家の指導を受け、補植などを実施する。また、植生検討会は縄文の森広場と連携して実施し、植物の構成樹種の相違を活かした2つの異なる森づくりとその利活用を行う。

第1回 植生検討会：5月【中止】  
第2回 植生検討会：11月予定  
植生調査・景観調査 6月～12月

#### ④常設展示の見直しに関する調査研究

開館から25年を超え、常設展の内容が最新の研究成果にそぐわない、反映していないところが増えてきた。来館者に正しい情報をより分かりやすく伝える展示内容や方法を検討する必要があるため、先進事例の調査や有識者を招き指導・助言をいただく場を設ける。

### (4) 縄文の森広場との連携事業

- ・縄文春まつり 4月29日(祝・金)
- ・縄文夏まつり 8月11日(祝・木)
- ・縄文秋まつり 10月22日(土)
- ・縄文冬まつり 2月5日(日)

### (5) 資料の収集・保管

#### ①常設展示関係

仙台市教育委員会で所蔵する常設展示に関する資料を借用し保管する。

#### ②保管資料

仙台市教育委員会が所蔵する旧石器時代・古墳時代に関する資料及び関係機関からの寄贈図書、購入図書、企画展実施のために製作した資料、寄贈資料などを収蔵する。

### (6) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。あわせて「仙台市民文化事業団事業運営に関する基本方針」(令和4年3月改訂)に沿い業務を進める。

### (7) 刊行物

- ①ミュージアム通信 年3回
- ②企画展刊行物(展示図録、ポスター、チラシ)
- ③年報(縄文の森広場と合本)
- ④調査研究報告書(縄文の森広場と合本)
- ⑤リーフレット、パンフレット

## 6. 利用案内

### ●所在地

〒982-0012 宮城県仙台市太白区長町南四丁目3-1

### ●電話およびFAX

TEL 022(246)9153 FAX 022(246)9158

### ●Eメール t-forest@coral.ocn.ne.jp

### ●ホームページ

<https://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~chiteinomori/>

### ●開館時間

午前9時～午後4時45分(入館は午後4時15分まで)

### ●入館料・共通券

区 分	個人	団体	共通入場券
一 般	460円	360円	490円
高校生	230円	180円	280円
小・中学生	110円	90円	150円

- ・団体は30人以上, 引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「仙台市縄文の森広場」共通入場券

### ●休館日

月曜日(休日は開館)

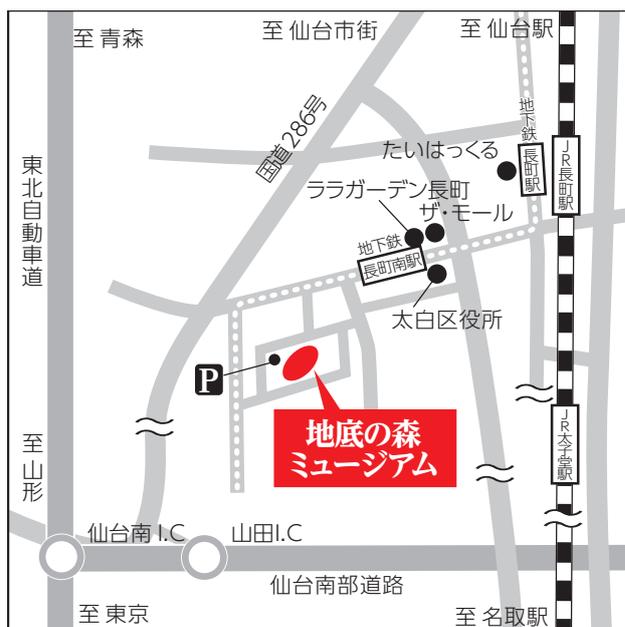
休日の翌日(休日, 土・日曜日にあたる日は開館)

1月～11月の第4木曜日(休日は開館)

くん蒸のため臨時休館(12月23日～12月27日)

### ●交通案内

- ・仙台市営地下鉄南北線長町南駅より西へ徒歩約5分
- ・JR東北本線長町駅より西へ徒歩約20分・東北自動車道 仙台南インターより東へ約7km



# [仙台市縄文の森広場]

## 1. 令和3年度事業報告

令和3(2021)年度も、新型コロナウイルス感染症の影響によって規模を縮小した事業もあったが、将来的な需要なども見据えて、YouTube・Zoomの運用をはじめオンラインやSNSの活用などを積極的に行った。新型コロナウイルス感染症状況下において市民の価値観とサービス受容環境が多様化する中で、特定の人のみが恩恵を受けることがないように、新型コロナウイルス感染症の終息後に館活動や情報発信が100%以上になることを考慮して事業を計画・実施した。

### (1) 展示事業

#### ① 常設展示

##### ○ エントランスホール

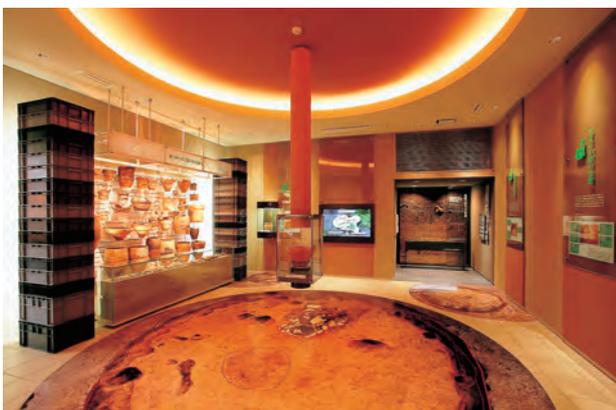
当館の概要及び特長を紹介する映像が流れ、当館が完成するまでの軌跡を円形の壁面パネルにて展示している。壁面にある展示ケースでは、体験作品の見本やミニ企画展の拡張展示など、定期的に展示内容を変更している。寅年にちなんでトラ形土製品をプレゼントする企画を行い、さらにその展示も行った。期間中、プレゼントを受け取られた来館者(「冬のじょうもんクイズラリー」に全問正解した方、寅年生まれの方)は合計212人であった。

当館ボランティア製作の複式炉模型の展示やオリジナルグッズの販売も行っている。

##### ○ ガイダンス展示室

#### <体験導入室1>「展示1 縄文ムラを発掘する」

山田上ノ台遺跡の発掘調査成果について、各種パネルや出土資料の展示などをとおして紹介している。床面には竪穴住居の出土状況写真も展示している。また発掘の原理、調査の実際などを模型やVTRを使って紹介している。



縄文ムラを発掘する

#### <体験導入室2>「展示2 縄文ムラがよみがえる」

山田上ノ台の縄文ムラの情景を模型で再現している。新型コロナウイルス感染症対策として、ハンズオンや接触の多い展示は一部撤去した。

#### ・ 縄文学ラウンジ

縄文時代に関連した調べ学習ができるように、関連図書を整備している。くわえて縄文時代に食べられていたと考えられる木の実や雑穀などの実物も展示、紹介している。



縄文学ラウンジ

#### ・ 縄文土器 年表

約12,000年間続いた縄文時代の、時期ごとの土器型式の違いを、仙台市内の遺跡とともに紹介するパネルを展示している。

#### ・ 縄文時代の環境復元

縄文時代の植物環境についての説明パネルと、花粉が顕微鏡で実際どのように観察できるのか、モニター展示している。

#### ・ 土器、石器がおしえてくれること

土器に残された痕跡から分かること、石器の用途などを紹介している。

#### <体験導入室2>「展示3 縄文ムラのくらしが見える」

#### ・ 縄文人のすまいとくらし

竪穴住居の内部の様子を模型で紹介して、土器や石器などの出土品からわかった縄文人の生活を紹介している。



竪穴住居の模型

## ②企画展示

今年度は、震災復興に関連する調査および代表的な仙台市内の縄文遺跡について、4回行った。

### i) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—福島県南相馬市中才遺跡—」

○会期：令和3年3月13日(土)～6月13日(日)

○入館者数：996人(4/1～6/13)

○展示内容：福島県南相馬市に所在する縄文時代後・晩期の中才遺跡から発見された縄文土器や石器などに焦点をあてて展示し、製塩活動を伴う縄文の集落について理解を深めてもらうことを目的とした。

○展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネルなど。

### ii) 夏のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—仙台市川前遺跡—」

○会期：令和3年7月31日(土)～10月17日(日)

○入館者数：3,416人

○展示内容：仙台市に所在する縄文時代の川前遺跡から発見された縄文土器や石製品を展示し、遺跡の具体像を紹介することを目的とした。



展示風景

○展示構成：展示趣旨・遺跡位置図及び遺跡紹介文字パネル、遺跡や遺物の写真パネルなど。

### iii) 冬のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—仙台市山田上ノ台遺跡—」

○会期：令和3年12月1日(水)～令和4年2月20日(日)

○入館者数：2,008人

○展示内容：当館が所在する縄文時代中期の山田上ノ台遺跡について展示した。開館から継続して実施している発掘調査の成果を中心に紹介した。

○展示構成：展示趣旨・遺跡位置図及び遺跡紹介文字パネル、遺跡や遺物の写真パネル紹介、遺跡出土の遺物など。

### iv) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—3Dで見る下ノ内浦遺跡の縄文土器—」

○会期：令和4年3月19日(土)～6月12日(日)

○入館者数：784人(～3/31)

○展示内容：仙台市に所在する縄文時代後期の下ノ内浦遺跡から発見された縄文土器を3Dデータとともに展示した。

○展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネルなど。



展示風景

## ③野外展示

### i) 縄文ムラと広場

野外には、竪穴住居を復元し、その他の遺構を表示している縄文ムラゾーンと、植物栽培などを行う広場ゾーンがある。それらの周りにはクリやコナラなどの森を復元し、縄文時代の環境を含めて、集落を再現している。

#### ・縄文ムラ(野外展示の東半部)

発掘調査では38棟の竪穴住居跡をはじめ、貯蔵穴、落とし穴などが多数見つかり、各遺構は主に見晴らしの良い台地の縁に沿って造られている。野外の東側には同



縄文ムラの環境の復元

時期に建てていたことがわかった竪穴住居3棟を復元し、また周囲には貯蔵穴や落とし穴、ゴミ捨て場などの遺構を表示し、縄文時代のムラの様子を再現している。

・復元住居について

3棟の竪穴住居の復元については、いずれもクリ材で骨組みを造り、土屋根タイプの構造を採用している。その中の14号住居はガイダンス展示室内にも一部を復元している。14号住居は地面を円形に掘り凹めて平らな床をつくり、8本の柱を立て、屋根は土で葺いた竪穴住居である。入口にあたる床の南側には、小石で囲まれた土器と大きな河原石の石組みなどからできた複式炉と呼ばれる大きな炉がある。



14号復元住居(左)と9号復元住居(右)

・広場(野外展示の西半部)

当時の広場と推定される場所を含めて西側一帯は、野外での縄文体験やイベント、縄文人が育てていた作物の栽培、体験活動を兼ねた発掘調査などを行う場として利用している。

ii) 植生

野外にはムラや広場とともに、縄文時代の森の様子を推定復元している。当時の植生についてはこれまでの研究で、縄文ムラの近くには現在の雑木林に近い落葉広葉樹林の豊かな森が広がっていたことがわかっている。これらを参考

にして、高木はクリ、クルミ、トチ、コナラなど、低木はタラノキ、ガマズミ、ミズキ、ニワトコなど、草本ではササ、チガヤ、キキョウなどを植栽している。令和3年度はサルナシを追加した。また、「植生検討会」での指導・助言を受けて、森の維持管理・充実を図っている。※令和3年度は検討会1回のみ実施。



植生の復元

iii) 縄文畑

野外広場の北西部には、縄文時代に栽培されていた可能性がある作物や有用植物の見本畑がある。現在はヒエ・アワ・キビの雑穀やエゴマ・ツルマメ・ヤブツルアズキの他に、アケビ、ヤマブドウ、カラムシなどを育てている。



縄文畑



つる性木本栽培棚

## (2) 普及啓発事業

### ①夏休み子ども考古学教室

小学生と保護者がさまざまな体験活動を実施しながら縄文時代に関する理解を深め、生活の様子や知識を学ぶ機会とすることを目的に実施した。火おこし体験・石のアクセサリーづくりなど親子で楽しめるメニューの体験活動を行った。

- ・日時：8月21日(土) 10:00～12:00
- ・参加者：6組17人



教室のようす

### ②長期休暇特別イベント

より多くの市民に当館に興味関心を持っていただくことを目的とし、市内小中学校の長期休暇期間にあわせて、普段とは異なる体験活動メニューを無料で実施した。

#### ○夏休み特別イベント

「つくって！縄文－消しゴム石器づくり－」

- ・日時：7月31日(土) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者：115人



イベントのようす

#### ○秋休み特別イベント

「つくって！縄文－グリーンタフのアクセサリーづくり－」

- ・日時：10月10日(日) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者：131人

#### ○冬休み特別イベント

「つくって！縄文－消しゴムはんこで年賀状づくり－」

- ・日時：12月25日(土) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者：59人

#### ○春休み特別イベント

「つくって！縄文－土面を塗ってみよう－」

- ・日時：3月26日(土) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者：47人

### ③発掘体験教室

縄文人が生活していた時代の土に触れ、遺構や遺物を発見するなどの発掘体験を通して、歴史や当時の生活に興味を持っていただくことをねらいとした。昨年度に引き続き、遺物包含層を調査対象として仙台市教育委員会文化財課が調査を実施。期間中に小学5年生以上を対象とした。両日とも雨天のためふるいの作業を行った。

- ・日時：10月13日(水) 10:00～12:00 参加者：7人
- 10月17日(日) 10:00～12:00 参加者：8人



教室のようす

### ④発掘資料整理体験教室

山田上台遺跡の発掘調査で出土した土器や石器などの遺物に触れ、歴史を身近に感じてもらうねらいで実施した。実際の整理作業と同じような洗浄や拓本取りの作業体験が



教室のようす

主な内容であった。

- ・日時：12月5日(日) 10:00～14:00
- ・参加者：5組11人

### ⑤縄文の知恵と技を学ぶ

本事業は、縄文時代の人々の生活の技術や知恵を学ぶために大人も対象としてモノづくりを行った。

#### ○「岩偶づくり」

- ・日時：9月5日(日) 10:00～14:00
- 臨時休館により中止

#### ○「How to 火起し」

様々な火起しの方法について、実際に体験しながら学習した。

- ・日時：11月7日(日) 10:00～12:00
- ・参加者：8組24人

### ⑥週末体験講座

さまざまな縄文体験を企画。事前申込み制で実施した。

参加者アンケートによる満足度はどの回も高く、縄文時代に興味・関心を持ってきている様子がうかがえた。

- ・「カゴ編みで器をつくろう」  
5月1日(土) 臨時休館により中止
- ・「小さな樹皮バックづくり」  
5月30日(日) 10:00～12:00 参加者：10人
- ・「カゴ編みで器をつくろう」  
9月12日(日) 臨時休館により中止
- ・「千支の土製品づくり」  
11月14日(日) 10:00～14:00 参加者：15人
- ・「手形・足形づくり」  
1月23日(日) 10:30～12:00 参加者：19人
- ・「縄文土器づくり〈1kgサイズに挑戦〉」  
3月6日(日) 10:00～15:00 参加者：19人

### ⑦縄文の森講座

3回のうち2回をコーナー展開連講座として、会場・オンラインの併用で実施した。

#### ○第1回「南相馬市中才・鷲内遺跡の縄文時代後・晩期の発掘成果について」「中才遺跡出土の製塩土器を考える」

- ・日時：5月29日(土) 13:30～15:00
- ・参加者：51人(会場9人 オンライン42人)
- ・講師：川田強氏(南相馬市教育委員会)、高橋満氏(福島県立博物館)

#### ○第2回「縄文時代おわりごろの仙台」

- ・日時：9月20日(月・祝) 13:30～15:00
- ・参加者：36人(会場16人 オンライン20人)

- ・講師：佐藤祐輔(当館)

#### ○第3回「仙台発掘最前線!! 2021」

- ・日時：2月20日(日) 13:30～15:00
- ・参加者：46人(会場20人 オンライン26人)
- ・講師：三浦一樹氏, 妹尾一樹氏, 五十嵐愛氏(仙台市教育委員会文化財課)



縄文の森講座

### ⑧縄文まつり

本事業では季節ごとに特色ある縄文まつりを行っていたが、当年度は春・冬は中止、夏・秋は計画どおり実施した。コンサートタイムでは、2つの団体に演奏していただいた。

#### ○縄文春まつり(5月9日(日)), 冬まつり(2月6日(日))

中止

#### ○縄文夏まつり

- ・日時：8月9日(月・振) 10:00～15:00
- ・内容：カラーリングブック, ミニコンサート“ソニド・デル・ビエント”
- ・参加者：74人

#### ○縄文秋まつり

- ・日時：10月23日(土) 10:00～15:00
- ・内容：クイズラリー, 縄文工作, 発掘見学, ミニコンサート“高橋泉と縄文JAZZ オーケストラ”
- ・参加者：75人

### ⑨学校・地域連携促進事業

文化事業団の自主事業。山田上ノ台遺跡や縄文文化とは何であるのかを地域の人々に知っていただく機会を設け、近隣の小中学校や地域の市民センター・児童館との結びつきを深めることで、縄文の森広場がより地域に根差した施設となることを目的とする事業である。今年度はイベントの実施を見送ったが、これまで制作した縄文の森広場に関連するカラーリングブック(ぬり絵)の大判印刷などをおこなった。

### ⑩展示手法の開発と導入

3次元データ計測とリビング・ストーリーの2つを軸に今後の展示計画を検討した。令和3年度は、山田上ノ台遺跡の縄文土器を中心に3次元計測を行い、石器製作実験セミナーを実施した。

#### i) 石器製作実験セミナー（ハンドアックス編）

- ・11月27日(土) 13:00～14:30
- ・講師：イ・ハニョン氏(韓国全谷先史博物館長)
- ・参加者：33人



石器製作実験セミナー（ハンドアックス編）の様子

#### ii) 石器製作実験セミナー（石刃編）

- ・3月20日(日) 13:00～14:30
- ・講師：佐藤祐輔(当館)
- ・参加者：38人(会場14人, オンライン24人)

### ⑪野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける“じょうもん”」

縄文時代の植生を復元した野外展示を、地域住民や学校と共につくりあげることを目的とした事業で、毎年近隣の太白小学校1年生を対象として、太白山自然観察の森でクリやクヌギなどの種を採取し、植え付けを行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大により、当年度は中止した。

### ⑫運営懇談会

当館の活動を紹介し、地域の町内会や小・中学校、市民センターなどの方々の意見をいただき、事業に反映させるために実施するものであるが、当年度は中止とした。

### ⑬コロナ流行中に(休館中も含む)取り組んだ新しい試みなど

- ・YouTubeの運用開始
- ・Facebookを利用した積極的な情報発信
- ・オンライン併用の講座を実施
- ・季節のクイズラリー(夏・秋・冬)

夏：463人 秋：462人 冬：417人

- ・持ち帰り用体験活動セット(勾玉・石のアクセサリー・鹿ツノのアクセサリー)の販売

## (3) 体験活動事業

### ①各種体験活動

#### i) 随時体験

当施設の特徴の一つは、来館者が予約なしでいつでもメニューを選んで実施できる随時体験であるが、昨年度から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日時限定・事前予約制で勾玉づくり、石のアクセサリーづくりを行い、7月から土器づくり、11月から火おこし、12月から土笛づくりも加えて行った。また1月から体験材料セットの販売を行った。

- ・参加者：1,460人



随時体験の様子

#### ii) 団体の予約体験

令和3年度は14組の団体から見学・体験の申込みがあり、延べ人数は432人である。団体の内訳は市内の小・中学校を中心に、県内外の小・中学校、デイサービスセンターなどである。体験活動は勾玉づくりや石のアクセサリーづくり、土器づくりなど。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため



団体体験の様子

め、見学のみの利用も多い。新型コロナウイルス感染症の影響で、県外からの利用は少なかった。

### iii) 出前講座

小学校・市民センターなどの依頼で、職員が希望の場所へ出向いて体験活動を行った。今年度は市内外の小・中学校や市民センター、児童館、放課後等デイサービスなど9団体・11件に対応した。

- ・遠見塚小学校「土器づくり」 参加者：144人
- ・遠見塚小学校「野焼き」 参加者：72人
- ・宮床中学校「勾玉づくり」 参加者：151人
- ・泉区中央市民センター「石のアクセサリーづくり」 参加者：15人
- ・名取市増田西児童センター「勾玉づくり」 参加者：36人
- ・上野山児童館「よりよりミサンガ」 参加者：46人
- ・人来田マイスクール児童館「干支の土製品づくり」 参加者：41人
- ・人来田マイスクール児童館「よりよりミサンガ・ストラップづくり」 参加者：25人
- ・放課後等デイサービス And You 「勾玉づくり」 参加者：15人
- ・中田市民センター「石のアクセサリーづくり」 参加者：19人
- ・JR 東日本企画「シカ角のアクセサリーづくり」 参加者：101人

## ②学校教育との連携

### i) 利用学習

学校の授業の一環として、地底の森ミュージアム及び当館が交通費（バス代）を負担し、体験活動と展示見学を組み合わせた学習活動を行う利用学習事業には、市内18の小学校1,236人の参加があった。新型コロナウイルス感染症の影響で、例年の2/3程度の利用だった。また、令和2年度から新学習指導要領が改訂され、歴史学習の開始時期が変更になったこともあり、6～7月の利用が中心となった。本事業の詳細は当館ホームページ上にて公開している「利用学習実践報告」を参照されたい。

### ii) 博物館実務実習

大学で行われている博物館学の講義の一環として、学芸員資格取得のための実習を行った。館運営に関する講座のほか、縄文秋まつりの準備、発掘体験教室の準備と実施、体験活動の指導法などの実習を行った。10月9日（土）～10月13日（水）の期間に、東北学院大学2人、東北芸術工科大学1人、計3人が参加した。

### iii) 教職員機関研修

学校教育との連携をはかる事業の一環として、市内小中学校教職員を対象に参加者を募集し、教職員利用研修会及び機関研修を行い、当館の概要説明や体験活動の周知を図る。

- ・対象と定員：市内小中学校教員10人程度
- ・日時：8月6日（金） 9:30～11:30
- ・参加者：2人

### iv) 職場体験活動

11月に市内中学校3校から職場体験の申し込みがあり、対応した。当館の勤務内容を体験するとともに、事業内容などについても説明を行った。これまで来館者の立場で当館を利用した生徒もおり、職員にとっても来館者の生の声を聴くことのできる貴重な機会となった。

- ・参加者：西多賀中学校5人、人来田中学校6人、柳生中学校5人

### v) インターンシップ

大学生を対象とした職業体験を受け入れた。

- ・日時：9月25日～9月30日
- ・参加者：東北芸術工科大学1人

## (4) ボランティア活動事業

### ① ボランティア育成講座

ボランティア育成講座新規応募者8人を対象に計6回の講座を開催した。内容はボランティア活動の内容、体験活動の技術研修などである。

- |     |          |             |                |        |
|-----|----------|-------------|----------------|--------|
| 第1回 | 5月23日（日） | 13:00～14:30 | オリエンテーション・施設見学 | 参加者：7人 |
| 第2回 | 6月6日（日）  | 13:00～15:00 | 勾玉づくり          | 参加者：4人 |
| 第3回 | 6月27日（日） | 13:00～14:30 | 石のアクセサリーづくり    | 参加者：6人 |
| 第4回 | 7月11日（日） | 13:00～15:00 | 土器づくり          | 参加者：5人 |
| 第5回 | 7月25日（日） | 13:00～14:30 | 土製品づくり         | 参加者：7人 |
| 第6回 | 9月19日（日） | 9:00～12:00  | 土器の野焼き         | 参加者：4人 |



ボランティア育成講座 土器の野焼き

県内外の施設でおこなう視察研修は中止としたが、地底の森ミュージアムと合同で山田上ノ台遺跡の発掘見学と地底の森ミュージアムの遺跡保存の講座を実施した。



ボランティア研修 山田上ノ台遺跡の発掘見学

## ②ボランティア会との連携

仙台市縄文の森広場ボランティア会は、当館の運営をあらゆる面で支えるボランティアスタッフが運営する組織である。平成18年5月28日に設立され、今年度は61人が会員となった。館と会との連絡・調整は、毎月第4日曜日の定例会を中心に行っている。ここでは、館から翌月の事業に対する協力要請を説明したり協議したりしながら、サポート体制の構築をはかっている。活動内容としては来館者と接触しない活動に限定した(体験活動の準備等)。また、記念品・ミュージアムグッズの製作も行っている。ボランティアによる手作りの「勾玉」・「編布」・「土製品」はいずれも好評を得ており、修学旅行の子どもたちや家族づれに特に人気が高い。

以上のような、多岐にわたるボランティア会のさまざまな活動は、当館をより魅力的なものとするうえで非常に重要な役割を担っている。館とボランティア会との連携を、今後より多方面に展開し、強化していきたい。

○令和3年度のボランティア登録者数

・61人(前年度から継続53人+新規8人)

○令和2年度のボランティアの活動実績(延べ人数、延べ時間)

・168人

・804時間

○令和3年度以降の展開・方向性について

前年度末募集「令和4年度ボランティア」には新規3人の申込があった(うち2人辞退)。また、前年度登録ボランティアの継続(登録更新)は51人となった。令和4年度は52人での活動になる。

・育成講座は新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえて、日時を設定する。

・定例会をオンライン併用で行う(館と連絡をとりやすい環境を準備)。

## (5) 調査・研究事業

### ①体験プログラムの開発

体験施設である当館にとって、新規体験プログラムの開発は来館者に飽きを感じさせないための重要な要件である。既存体験メニューの見直し、体験内容と縄文文化をより分かりやすく紹介する方法、および新規プログラムの開発に取り組んだ。体験活動に制限ができたぶん、「おうちで縄文体験」として、勾玉・石のアクセサリー・鹿ツノのアクセサリーの持ち帰りを可能とした。自宅で作成可能なようにつくり方をYouTubeで公開した。

### ②復元住居の維持管理

当館の野外広場にて復元・公開している土屋根式竪穴住居を、より良好な状態で維持管理する方法について検討を行った。

3棟の住居入口扉の劣化が認められたため、修繕を行った。

### ③ボランティアスタッフとの共同調査

縄文時代および当館の管理運営に関わる様々な内容について、ボランティアスタッフと共同で調査活動を行った。

### ④調査研究報告書

仙台市富沢遺跡保存館と合本で、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2021』を発刊した。

富沢遺跡保存館の保存処理特集号としたため、仙台市縄文の森広場にかかる記載はなし。

## 2. 利用状況

令和3年度の開館日数は249日で、その間の全利用者数12,582人であった。前年度の8,491人に比較すると、4,091人増となっている。

体験活動者数は3,841人(団体の複数体験者も含む)で、全利用者数の約30%となり、例年より少ない。新型コロナ

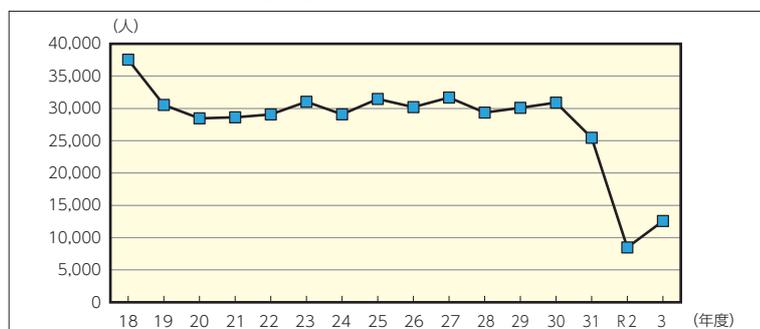
ウィルス感染症拡大防止のため、体験内容・回数・人数などを制限して随時体験を行った。体験活動内容では石のアクセサリーづくりが全体の57.4%を占めて最も多く、続いて勾玉づくり19.3%と続く。

なお、平成18年7月15日の開館から令和4年3月31日までの入館者の累計は444,658人である。

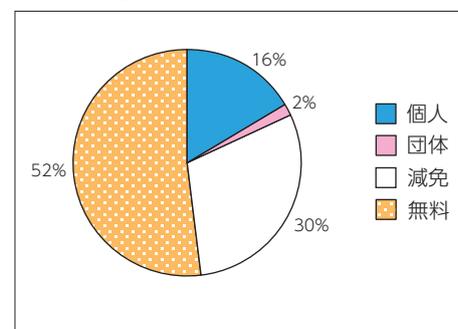
### 入館状況 (令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

月	有 料							無 料					体験活動者		合計
	個 人			団 体			計	減 免			無料入館	計	内、団体体験重複者(-)		
	一般	高校生	小・中学	一般	高校生	小・中学		一般	高校生	小・中学					
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	117	117	0	0	117
5	88	2	0	0	0	0	90	23	0	24	352	399	19	0	508
6	133	0	1	1	0	0	135	86	0	761	336	1,183	868	760	1,426
7	246	2	13	0	0	0	261	65	0	295	420	780	569	191	1,419
8	297	2	17	0	0	0	316	64	0	220	367	651	372	7	1,332
9	67	1	6	30	0	0	104	33	0	137	458	628	235	176	791
10	164	3	2	51	0	79	299	96	0	321	838	1,255	231	69	1,716
11	180	0	0	0	0	0	180	145	0	183	500	828	470	74	1,404
12	79	1	2	0	0	0	82	46	0	240	434	720	263	190	875
1	121	1	4	0	0	0	126	23	0	75	249	347	262	7	728
2	106	0	0	0	0	0	106	34	0	24	620	678	201	0	985
3	145	2	1	5	0	0	153	102	0	74	620	796	351	19	1,281
計	1,626	14	46	87	0	79	1,852	717	0	2,354	5,311	8,382	3,841	1,493	12,582

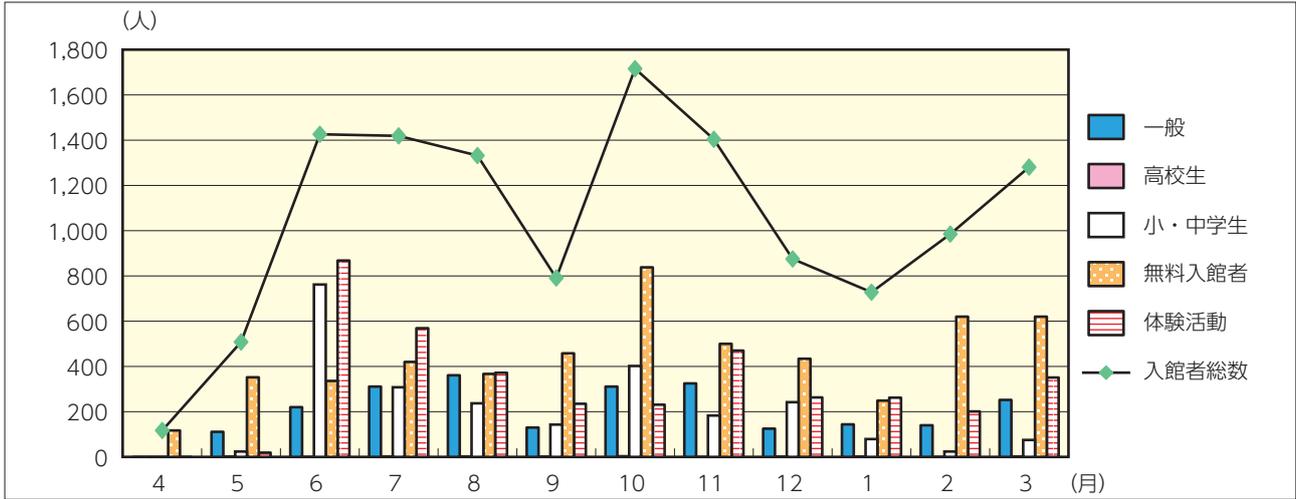
### 開館年度からの入場者推移



### 入館者内訳



### 月別入館者数

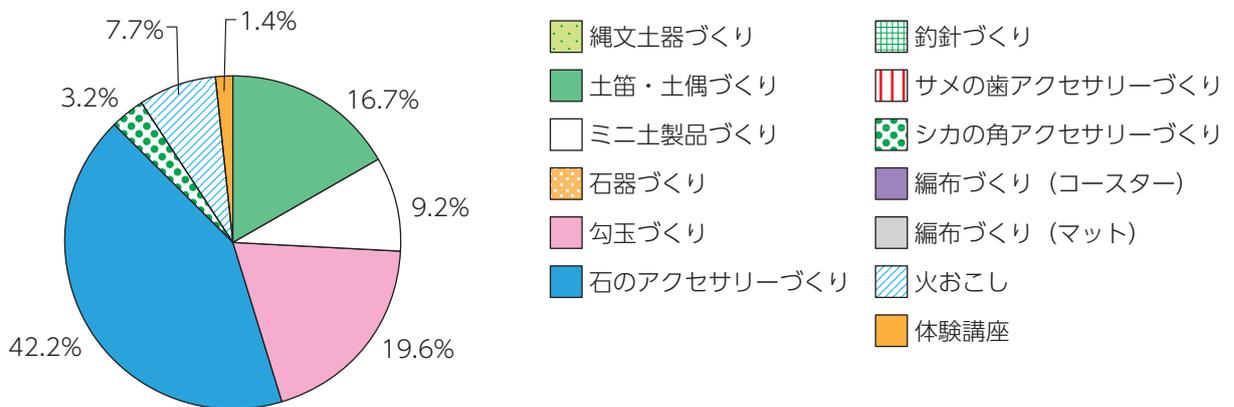


### 体験活動者数

(団体の複数体験も含む)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日時と人数を制限して行った。また、1月から体験材料セットの販売を行った。

月	体験メニュー													合計
	縄文土器づくり	土笛・土偶づくり	ミニ土製品づくり	石器づくり	勾玉づくり	石のアクセサリーづくり	釣針づくり	サメの歯アクセサリーづくり	シカの角アクセサリーづくり	編布づくり (コースター)	編布づくり (マット)	火おこし	体験講座	
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	12	3	0	0	0	0	0	0	0	15
6	0	121	0	0	55	627	0	0	0	0	0	3	0	806
7	0	156	13	0	32	215	0	0	0	0	0	22	0	438
8	0	62	33	0	78	33	0	0	0	0	0	87	9	302
9	0	71	58	0	21	95	0	0	0	0	0	0	0	245
10	0	42	28	0	23	97	0	0	0	0	0	0	0	190
11	0	29	25	0	271	22	0	0	0	0	0	54	20	421
12	0	8	7	0	47	165	0	0	0	0	0	22	0	249
1	0	35	60	0	37	18	0	0	6	0	0	29	9	194
2	0	6	31	0	18	54	0	0	5	0	0	18	0	132
3	0	14	45	0	46	47	0	0	93	0	0	17	9	271
計	0	544	300	0	640	1,376	0	0	104	0	0	252	47	3,263



### 3. 入館者アンケート

令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

## 4. 令和4年度事業計画

### (1) 基本方針

仙台市先史遺跡保存活用施設条例及び指定管理事業計画(別紙)に基づき、「人間と環境を考えるランドマーク」として地底の森ミュージアムと相互補完し合いながら、山田上ノ台遺跡の保存と公開及び縄文時代の資料の保存・調査・活用を行う。また様々な展示・体験・講座等を通して「歴史」に学ぶ活動を展開する。併せて当館の特色として調査・研究活動の成果を基にした「自然と共生した縄文人の知恵」を体験活動などに展開し、芸術分野や他分野との積極的な交流を推し進めながら、各年代層に応じた豊かな「学び」の機会を提供する施設を目指す。

### (2) 展示事業

#### ① コーナー展示

「縄文の遺跡」をテーマにコーナー展示を実施する。

- ・3月19日(土)～6月12日(日)
- ・7月31日(日)～10月16日(日)
- ・12月1日(木)～2月12日(日)
- ・3月19日(日)～6月4日(日)

#### ② 野外展示「縄文の森広場」植生検討会

※地底の森ミュージアムと共同で実施

- 第1回：6月上旬予定
- 第2回：11月上旬予定

### (3) 普及啓発事業

#### ① ボランティア育成講座

新規のボランティア10人を募集し、来館者や参加者により分かりやすい説明や体験活動の補助を行うための研修事業。現ボランティアのスキルアップ研修も兼ねる。

第1回オリエンテーションを4月10日(日)に実施し、その後、月1回程度実施。

#### ② 縄文の森講座

考古学に関する講演会を実施し、最新の研究状況を取り

上げる。オンラインでの配信も行う。

- ・12月11日(日)
- ・1月22日(日)
- ・2月26日(日) 各回とも13:30～15:00

#### ③ 縄文まつり(コンサート含む)

季節ごとに開催する。春・秋には体験や縄文に関連したゲームなど実施し、夏・冬には体験や縄文に関連したゲームやコンサートなどを実施する。また週末を中心にコンサートも実施する。

- ・4月29日(金) 10:00～15:00
- ・10月22日(土) 10:00～15:00

#### ④ 夏休み子ども考古学教室

火おこし、縄文食づくりなどの様々な体験を行う。

- ・7月30日(土) 10:00～14:00
- ・8月20日(土) 10:00～14:00

#### ⑤ 特別イベント

縄文時代や歴史に関わる、普段とは異なる体験メニューを行うイベントを行う。

- ・8月8日(月・祝)
- ・10月8日(土)
- ・12月24日(土)
- ・3月25日(土)

#### ⑥ 週末体験講座

様々な作品づくりや生活体験などを実施し、縄文人の技と心を学ぶ。

- ・4月17日(日)
- ・5月29日(日)
- ・9月11日(日)
- ・11月13日(日)
- ・1月15日(日)
- ・3月5日(日)

#### ⑦ 発掘体験教室

敷地内で行われる発掘調査に参加する体験で、出土遺物の水洗・拓本などの整理作業に参加する体験を行う。

- ・発掘体験 10月12日(水)・16日(日)  
各10:00～12:00
- ・整理体験 12月4日(日) 10:00～14:00

#### ⑧ 利用学習事業【地底の森ミュージアムと合同して実施】

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主たる

仙台市縄文の森広場

対象とし、地底の森ミュージアムと当館の見学と各種の縄文体験による体験学習を行う。

日程：学校側の希望による（通年）

#### ⑨施設利用予約

利用学習事業参加校以外の学校、子ども会、町内会等の各種団体を対象として展示解説や縄文体験を行う。

#### ⑩随時体験

来館者に様々な縄文体験メニューを提供する。参加者の利便性を高め、より多くの市民が気軽に当館を訪れ体験活動に参加できるよう予約なしで随時受け入れることとする。

#### ⑪教員機関研修【地底の森ミュージアムと合同実施】

学校教育との連携事業を推進するために、仙台市内の教職員を対象（定員20人）として当館の概要及び体験活動事業を周知する機会とする。

・日時：8月5日（金）

#### ⑫野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける『じょうもん』」

野外展示「縄文の森」の利活用の幅を広げるために、地域の団体や小学校などと連携した事業で専門家の指導を受けて太白山自然観察の森で生育するクリなどを採取し育てる事業を行う。

太白小1年生を対象として10月と3月頃に実施予定。

#### ⑬博物館実務実習

学芸員資格取得をめざす大学生を数人受け入れ、実習を行う。

日時：10月中旬（計5日間） 9:30～16:00

#### ⑭職場体験・インターンシップ

近隣中学校の要請により、中学2年生を対象とした職場体験の受け入れなどを行う。

日時：11月～12月頃（学校の希望による）

#### ⑮情報発信

- ・ホームページの更新
- ・フェイスブックの更新
- ・館内の情報提供（掲示物：発掘調査情報、他施設イベント情報）

#### ⑯ボランティア会との連携

- ・定例会開催と館運営の協力依頼
- ・自主的な会活動に対する支援
- ・ミュージアムグッズの共同開発と制作販売の支援

#### ⑰地域と連携

町内会などの地域住民の行事に対しては、共催や後援等の形で活動の場を提供しながら支援を行う。

#### ⑱運営懇談会

10月頃に実施

#### ⑲専門研修

2月24日（金）

#### ⑳文化事業団の自主財源事業

i) 学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」

縄文時代の遺物などを資源とした、他分野との協働作業開発・実施を行う。

ii) 縄文の森オリジナルグッズ制作販売

iii) 展示手法の開発・導入

- ・縄文土器の3次元データ計測・作成
- ・リビング・ヒストリー手法の調査

## (4) 調査・研究事業

- ①縄文時代に関する調査研究
- ②体験活動メニュー、プログラムに関する調査研究
- ③復元住居の経年変化等観察記録・分析にもとづく維持管理に関する調査研究
- ④西側広場一帯の整備に向けた調査研究
- ⑤ボランティアスタッフとの共同調査研究の実施
- ⑥上記の研究成果をまとめた調査報告書を地底の森ミュージアムと合本で刊行
- ⑦2023年度コーナー展示の資料調査

## (5) 資料の収集・保管

- ①仙台市から借用保管している山田上ノ台遺跡等の縄文時代を中心とした資料を適切に管理し、各種事業活動に活かす。
- ②事業活動の充実を図るため、縄文時代を中心とした資料、及び縄文時代に関する文献の収集を行う。

## (6) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。あわせて「仙台市市民文化事業団事業運営に関する基本指針」（令和4年3月改訂）に沿い業務を進める。

## (7) 刊行物

- ①ミュージアム通信 年4回
- ②イベント紹介チラシ 年2回
- ③年報（地底の森ミュージアムと合本）
- ④調査研究報告書（地底の森ミュージアムと合本）
- ⑤リーフレット、パンフレット、封筒

## 5. 利用案内

### ●所在地

〒982-0815 宮城県仙台市太白区山田上台町10番1号

### ●電話およびFAX

TEL 022(307)5665 FAX 022(743)6771

### ●Eメール j-hiroba@cap.ocn.ne.jp

### ●ホームページ

<https://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~jyoumon/>

### ●開館時間 午前9時～午後4時45分

(体験受付は午前9時～11時30分／午後12時30分～3時, 入館は午後4時15分まで)

### ●入館料・共通券

区分	個人	団体	共通入場券
一般	200円	160円	490円
高校生	150円	120円	280円
小・中学生	100円	80円	150円

- ・団体は30人以上, 引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「縄文の森広場」共通入場券

### ●休館日

月曜日(休日は開館)

休日の翌日(休日, 土曜・日曜日にあたる日は開館)

1月～11月の第4木曜日(休日は開館)

年末年始(12月28日～1月4日)

### ●交通案内

#### 【バス】

県庁市役所～仙台駅～長町駅より宮城交通バス「秋保」「日本平」「茂庭台」「南ニュータウン」行きにて「山田・太白消防署前」停留所下車徒歩5分

#### 【車】

東北自動車道：仙台南インターから約4km

仙台南部有料道路：山田インターから約1km



## 地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報 2022

発行日 令和4(2022)年9月30日

編集・発行 (公財) 仙台市市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館  
〒982-0012 仙台市太白区長町南4-3-1 TEL (022) 246-9153

印刷 今野印刷株式会社  
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-10 TEL (022) 288-6123



この印刷物は、環境にやさしい  
「水なしLED-UV印刷」で印刷しています。